



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

平成29年度

活動成果報告書



金沢大学



信州大学



富山大学



福井大学



金沢医科大学



石川県立看護大学



ご挨拶

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
北信がんプロ 事業推進代表者 金沢大学長
山崎 光悦



文部科学省の公募事業である「がんプロフェッショナル養成プラン」は、がん対策基本法が施行された2007年にはじまり、「がんの均てん化」をテーマに全国18拠点/95大学が、2011年からの第2期目は「教育改革、研究者育成、地域連携」をテーマに全国15拠点/100大学が、がん医療の人材育成について取り組み、高く評価されました。2017年からは、「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」として、文部科学省プロジェクトとしては異例ともいえる第3期目がはじまっております。第3期がんプロでは全国11拠点/80大学が採択されておりますが、採択拠点及び参加大学の数は従来と比べ絞られており、各大学は、より大きな成果をあげることが文部科学省から求められております。

金沢大学は、第1期・第2期と、本学を中心に北陸3県の富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学と連携し、5大学による「北陸がんプロ」として活動してまいりました。今年度からの第3期では、新たに信州大学と連携し、6大学による「北信がんプロ」として活動を北陸・長野の北信地域に広げました。北信地域が全国平均と比較し15年以上進んだ超少子高齢化社会であることを地域の特徴として掲げ、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」というテーマで、戦略的にがん医療人を養成してまいります。

「北信がんプロ」では「がんプロ運営協議会」に地域すべてのがん診療連携拠点病院、医師会、行政が参加し、協力体制が整備されていること、患者会の方々にもご参画いただいて連携していることが、がんプロ養成推進委員会でも高く評価されております。これから5年間の「北信がんプロ」が実りある活動になるよう、6大学が一丸となって取組を推進してまいります。



北信がんプロ統括コーディネーター
金沢大学附属病院がんセンター教授

やの せいじ
矢野 聖二



本学は、医師・歯科医師、薬剤師、医学物理士対象の3コースを本科生に、医師・歯科医師と薬剤師対象の2コースをインテンシブに設けます。私からは医師・歯科医師対象のコースを中心に紹介します。

私たちはゲノム医療をメインテーマとして掲げており、本科コースの「先端的個別化医療コース」では、ゲノム解析により分子標的薬などの最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療を実践できる医師・歯科医師の養成を目指しています。

インテンシブの「がんゲノム医療生涯教育コース」は、分子標的治療などゲノム医療を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師・歯科医師の養成を掲げています。

医療技術・医療物理人材育成コースは、基礎的・臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において、個別化医療を目指す臨床研究を実践できる人材を養成します。本学保健学類の教員を中心に立ち上げていただきます。



「ゲノム医療体制を構築」

信州大学包括的がん治療学教授

こいずみ ともぶ
小泉 知展



私たちは第2期がんプロで、腫瘍内科、放射線治療、緩和ケアの診療体制を作り、原発不明がんや、希少がんの診療体制を構築しました。

今年9月にはクリニカルシーケンス（がん関連遺伝子の変異を解析する検査）を開始しゲノム医療推進の体制を整備しています。遺伝子医療研究センターでは、家族性腫瘍や遺伝性卵巣乳がん症候群の診療・遺伝子解析を行い、カウンセリングを行っています。

これらの実績に基づき、本学は北信がんプロで、2つの本科生コースを設置しました。「ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース」では、希少がんの診療経験とゲノム解析、それからクリニカルシーケンスの実施、解析ができ、小児から高齢者まで、幅広い年代の患者を診療できるとともに、遺伝性のがんやゲノム異常の解析もできる医療人の育成を目的としています。

「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース」では、がんの遺伝に関する認定遺伝カウンセラー育成を図っていきます。



「高齢者対策にスポット」

富山大学附属病院臨床腫瘍部教授

はやし りゅうじ
林 龍二

がんは主に高齢者の病気であるわけですが、高齢者にスポットを当てた研究が少ないのも現状です。本学は高齢化が進む北陸地域の特色を生かした研究・教育を提示したいと考えています。

医学系の本科生コースでは、「高齢がん患者対策専門コース」、薬学系の方では「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース」を設けました。

インテンシブにも同じコースを設けるとともに、看護師を対象とした「在宅がん緩和リハビリテーションコース」を開設します。

医学系の本科生コースは毎年4名の登録を目標としていますが、そのうち2名は研究医養成プログラムを履修する学部学生を対象とします。

薬学系コースではゲノム医療演習として、がん細胞生物学教授による、最新の分子標的治療薬の講義を行います。在宅医療演習では、超高齢患者への対応で必要となる、チャレンジングな演習を行う計画で、がん治療へ深い職責を果たせる薬剤師を育てます。



「症例データ集めて研究」

福井大学がん診療推進センター教授

かたやま かんじ
片山 寛次

福井県のがんの現状として、5大がん（肺、大腸、胃、乳、子宮）の良質な医療を安全、適正に提供するための診療計画表「地域連携クリティカルパス」の使用が全国的にみて多いことが挙げられます。

本学は、この特色に対応できる地域がん専門医の育成を課題と位置づけ、本科生コースに設定しました。

インテンシブでは「在宅緩和医療コース」「在宅栄養管理コース」を開設します。痛みの緩和や栄養、高齢者、小児のがん、さらに心の問題に関する部門で、充実した教育を実施する計画です。

その他、希少がん対策として、北陸3県の統計を取って、特徴的な治療を行っていきます。特に希少がんである腹膜偽粘液腫について、本学は全国的に症例を集めており、さらに他大学からも、より詳しいデータをいただいて、研究に活用します。

福井県は、テレビ会議システム導入が石川、富山ほどに進んでおりませんので、北信がんプロと合わせて、拠点病院にシステムを整備いただき、事例検討会などを進めたいと考えています。



「願いに沿える医師養成」

金沢医科大学腫瘍内科学教授 もとお よしはる
元雄 良治

私たちは、希少がんを含むがん患者を、臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指しています。その目的のため、北信がんプロでは本科生に「がん専門医リーダー養成コース」、インテンシブでは「集学的治療医養成コース」を設置しました。

本学は再生医療センターで、希少がんの免疫療法・再生医療に取り組んでいます。また、大学病院の集学的医療部遺伝子医療センター（2018年4月からゲノム医療センター）では、遺伝カウンセリングを中心に独自の教育内容を有しております。

腫瘍内科では、肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明がんなどの診療・教育・研究に携わっているのも特色です。

私たちが養成すべき人材像は、患者の思いに寄り添い、最新のエビデンス（医学的根拠）と情報を集め、患者と家族の希望をかなえるよう努力できる専門医師です。本学の教育プログラム・コース修了者が、各専門分野の専門医・認定医などの資格を取得し、地域を問わず、広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できることを構想しています



「心のケア担う看護師に」

石川県立看護大学成人看護学領域教授 まさの ともえ
牧野 智恵

本学は今回のがんプロ本科生では「がんライフステージコース」、インテンシブでは「がんライフケアコース」を開設します。近年、AYA世代（思春期・若年成年）の女性で子宮頸がんが増えていることもあり、予防や治療と平行して、看護職者による心のケアが重要ではないかと考えております。

本科生コースは、がん患者のQOL（生活の質）の向上を目的に、小児からAYA世代、高齢者までの各ライフステージにおいて、治療・療養など全般に卓越した看護を提供できるがん看護専門看護師を育てます。富山大学・福井大学の専門看護師コースと連携し、がん看護専門看護師の育成と科目の充実を図っていきたく思っております。

インテンシブでは、これまでのテレビ会議システムを用いた「ライフステージ事例検討会」を、参加施設を増やし看護師だけでなく医師、医療従事者を対象とした内容に発展させて実施する予定です。

特に今年度は金沢大学の薬学類とも協力して、看護学のみならず、医学、薬学の視点からがん患者支援について検討していく予定です。

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 担当者

大学名	事業における役割	氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
金沢大学	<事業責任者> 事業推進統括コーディネーター、 北信がんプロ運営協議会会長、 総務委員会	矢野 聖二	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 がん進展制御研究所教授
	学長連絡協議会会長	山崎 光悦	金沢大学学長
	広報委員会委員長	吉崎 智一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 附属病院研修医・専門医総合教育センター長
	プログラム間連携担当	絹谷 清剛	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 附属病院核医学診療科長
	がんデータベース委員会委員長	中田 光俊	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 附属病院脳神経外科診療科長
	教務委員会委員長	溝上 敦	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 附属病院泌尿器科診療科長
	広報委員会委員長	大島 正伸	金沢大学がん進展制御研究所教授
	北信地域がんデータベース担当 (コメンター)	村山 敏典	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 附属病院臨床開発部長
	北信地域がんデータベース担当 (コメンター)	土屋 弘行	金沢大学医薬保健研究域医学系教授、 附属病院整形外科主任教授
	北信地域がんデータベース担当 (コメンター)	衣斐 寛倫	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻准教授、 がん進展制御研究所准教授
	医学系内の調整	堀 修	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 大学院医薬保健学総合研究科長
	教育カリキュラム開発・編成担当	原田 憲一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授
	実習総括	蒲田 敏文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、 附属病院病院長
	実習コーディネーター担当 (医学総括)	谷本 梓	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻助教、 がん進展制御研究所助教
	北信がんプロ運営協議会委員、 保健学系内の調整	稲垣 美智子	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授、 大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻長
	保健学系内の調整	武村 哲治	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授
	北信がんプロ運営協議会	松下 良	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	菅 幸生	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻助教
	薬学系内の調整	松永 司	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授
	薬学系内の調整	国嶋 崇隆	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授、 大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻長
薬学専攻内の調整	玉井 郁巳	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授、 大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻長	
信州大学	事業総括・学長連絡協議会委員	濱田 州博	信州大学学長
	事業総括	田中 栄司	信州大学学術研究院医学系教授、大学院医学系研究科長
	事業推進プロジェクトリーダー、 事業推進委員会委員長、 教育プログラム責任者	小泉 知展	信州大学学術研究院医学系教授 (包括的がん治療学教室)
	教育カリキュラム開発・編成担当	中沢 洋三	信州大学学術研究院医学系教授 (小児科学教室)
	事業推進委員会委員	伊藤 研一	信州大学学術研究院医学系教授 (外科学第二教室)
	事業推進委員会委員	塩沢 丹里	信州大学学術研究院医学系教授 (産婦人科教室)
	事業推進委員会委員	古庄 知己	信州大学学術研究院医学系准教授 (遺伝子医療研究センター)
	事業推進委員会委員	本田 孝行	信州大学学術研究院医学系教授、医学部附属病院長

富山大学	事業総括	遠藤 俊郎	富山大学長
	事業推進プロジェクトリーダー	齋藤 滋	富山大学附属病院長
	教育カリキュラム開発・編成担当 (総括)	林 龍二	富山大学附属病院臨床腫瘍部教授
	広報戦略担当	長田 拓哉	富山大学附属病院集学的がん診療センター人材育成部門長
	教育カリキュラム開発・編成担当	北村 寛	富山大学大学院医学薬学研究部泌尿器科教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	関根 道和	富山大学大学院医学薬学研究部疫学・健康政策学教授
	実習コーディネーター担当(総括)	梶浦 新也	富山大学附属病院集学的がん診療センター緩和ケア部門長
	実習コーディネーター担当	牧野 輝彦	富山大学大学院医学薬学研究部皮膚科准教授
	富山地域での薬学関連事業の 総括、金沢大学や他大学病院と の連携担当	新田 淳美	富山大学大学院医学薬学研究部・薬物治療学研究室教授
	地域医療に対する実習・演習担 当	藤 秀人	富山大学大学院医学薬学研究部・医療薬学研究室教授
	ゲノム医療に関する講義実施の 総括	櫻井 宏明	富山大学大学院医学薬学研究部・がん細胞生物学教授
福井大学	事業総括・学長連絡協議会委員	眞弓 光文	福井大学長
	総務委員会委員、教務委員会委 員、広報・ICT委員会委員、 がんサポート運営委員会委員	片山 寛次	福井大学医学部附属病院がん診療推進センター教授
	総務委員会委員、がんサポート 運営委員会委員、 備品調達委員会委員	谷澤 昭彦	福井大学大学院医学領域 がん専門医育成推進講座教授
	広報・ICT委員会委員、 看護保健系会議委員	上野 栄一	福井大学大学院看護学領域 基礎看護学分野教授
	総務委員会委員、 教務委員会委員	磯見 智恵	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野教授
	教務委員会委員	小林 基弘	福井大学大学院医学領域腫瘍病理学分野教授
	備品調達委員会委員	山下 芳範	福井大学大学院医学領域附属病院部医療情報部准教授
	看護保健系会議委員	繁田 里美	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野准教授
金沢医科 大学	事業総括・学長連絡協議会委員	神田 享勉	金沢医科大学長
	金沢医科大学コーディネータ、 教育カリキュラム開発・編成担当	元雄 良治	金沢医科大学腫瘍内科学教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	安本 和生	金沢医科大学腫瘍内科学教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	下平 滋隆	金沢医科大学再生医療学教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	浦本 秀隆	金沢医科大学呼吸器外科学教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	小坂 健夫	金沢医科大学消化器外科学教授
	教育カリキュラム開発・編成担当	新井田 要	金沢医科大学総合医学研究所准教授
石川県立 看護大学	事業総括・学長連絡協議会委員	石垣 和子	石川県立看護大学(看護学・地域看護)学長
	事業推進プロジェクトリーダー、 事業推進委員会委員長、 教育プログラム責任者	牧野 智恵	石川県立看護大学(看護学研究科・がん看護)研究科長
	がん看護教育カリキュラム開発	川島 和代	石川県立看護大学(看護学研究科・老年看護)教授
	がん看護教育カリキュラム開発	西村 真実子	石川県立看護大学(看護学研究科・小児看護)教授
	事業推進委員	岩城 直子	石川県立看護大学(看護学研究科・がん看護)准教授

ご挨拶

◇連携各大学担当者一覧

目次

第Ⅰ部 事業の概要

1. 事業の構想	1
2. 達成目標・評価指標	3
3. 事業の実現可能性	3
4. 平成29年度 受入開始 教育コース一覧	7
◇インテンシブコース	
平成30年度 受入開始 教育コース一覧	13
◇本科生コース	
◇インテンシブコース	

第Ⅱ部 実績および成果

◇平成29年度がんプロ行事一覧	29
◇平成29年度事業実績	35
◇学長連絡協議会/運営協議会/キックオフミーティング	39
◇TV会議システムについて	49
◇オンコロジーセミナー	51
◇ライフステージ事例検討会	52
◇FD講演会/FD研修会	54
◇合同セミナー/国際セミナー・シンポジウム	61
◇合同市民公開講座/市民公開講座	64
◇海外FD研修会（ワシントンDC/メルボルン）	69
◇受講生の声	77
◇広報活動	83

第Ⅲ部 外部評価委員会

◇外部評価委員会（次第）	85
◇外部評価委員会 評価手順	87
◇外部評価結果	90

第 I 部 事業の概要

1. 事業の構想

概要

本事業は、県の枠を超えた北信4県（石川県、富山県、福井県、長野県）での戦略的がん医療人育成システム構築を目指し、6大学（金沢大学、信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学修できる、教育プログラム・コースを構築。e-learningによる講義や、2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

課題

北信地域は全国と比較し、15年以上進んだ超少子高齢化状態にあり、将来の日本を反映したモデル地域である。北信地域でも全国と同様最先端のゲノム医療による高度医療実現、小児・AYA世代・希少がん治療、ライフステージごとの対応が必要だが、進行した超少子高齢化により、社会を支える小児・AYA世代・働き盛り世代がんの最適な診療・治療・就労支援、増加した高齢者がんの最適な治療・在宅緩和ケアが喫緊のニーズである。これまでは金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大の小児・AYA世代がん診療、金沢医大の希少がん病理診断や集学的治療、富山大の高齢者がん対策、福井大の先進的在宅緩和ケア、石川看護大の全人的ケアと認定看護師養成等、各大学が特徴ある診療やがん医療人育成を行ってきた。しかし北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人育成における地域的医療課題がある。

対応策

北信地域に適合するがん医療人材育成のためには、6大学の強みを生かした相互補完的教育の実施、症例数が少ないがんでも効率よく経験できる遠隔教育・研修システムの確立、北信地域全体の症例・がん医療のデータベース化による医療実態の把握等に取り組み、県の枠を超えた戦略的ながん医療人育成システム構築が必要である。現状の北信地域で多様なニーズに対応した患者中心のチーム医療を行う先進的がん医療人材育成モデルを構築できれば、将来の日本の超少子高齢化社会で活躍するがん医療人材を育成できると考えられる。

新規性・独創性

本事業（北信がんプロ）においては、北信6大学の強み（金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大：希少がん病理診断や集学的治療・就労支援、富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成）を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設（本科10コース、インテンシブ9コース）し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

また、2期がんプロでの北陸5大学と共通のTV会議システムを信州大にも導入し、TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取組む。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー（病態や治療中心）やライフステージ事例検討会（患者ケア・支援中心）を定期開催する。

これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学修することができる。地域医療機関との人材交流、金沢大がん進展制御研究所や国立がん研究センター、シンガポール国立大、復旦大等との連携を利用した国際シンポジウムも実施する。さらに、各大学教員を海外連携機関へFD研修に派遣（平成33年度末までに各大学1回）し、スタッフの活性化とレベルアップを図る。海外FD研修の参加者は、上記TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表（成果共有・還元）すると共に、多職種のスキルアップ指導を行う。これらの取組みによって、多施設・多職種連携を一層推進するチーム医療教育を行うところに本事業の独創性がある。

北信地域のがん症例・がん医療（先進的医療を含む）の実態を把握するため、北信地域のがん診療連携拠点病院（28施設）の院内がん登録データを活用するとともに、金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）が作成する電子入力システム（Ptoshを応用）を用い、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬使用症例、在宅緩和ケア実施症例、障がい者がん症例、妊孕性保存症例など特色ある症例を対象とした独自の北信地域がんデータベースを新たに構築する。それを基盤とした臨床研究（高額な薬剤の有効利用法の探索を含む）成果の国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、本事業の求心力を保ち、データベースの情報や論文等の成果を北信がんプロの教育コースへも還元する。研究成果を継続的に社会に発信・還元することで、将来のがん対策の一環として地域住民へ「がん教育（がんの理解）・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰」に対する啓蒙を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的がん医療人材育成システム構築活動により6大学から輩出される医師・歯科医師・薬剤師・看護師・遺伝子カウンセラー等は、現状の北信地域、ひいては将来の日本の超少子高齢化社会において、ゲノム医療や多職種による就労支援及び切れ目ない緩和ケアを実践し活躍できる先進的がん医療人材となることが期待されるが、このような育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

社会との関係

信州大を中心とした遺伝カウンセラー養成では、家族性腫瘍（乳がん、卵巣がん等を含む）の患者・家族のカウンセリングを行い、心のケアや検診・早期発見・早期治療を支援する。また、北信地域の患者会等と連携し、地域メディア（テレビ、新聞、雑誌等）や合同市民公開講座を通じて地域住民にがん教育を行い、がん予防、検診受診による早期発見・早期治療、早期社会復帰等の啓蒙活動を積極的に行う。これらの活動を通じて患者や家族の意見を収集し、北信がんプロ運営協議会でその対応を議論し、がん患者及び家族の視点に立った取組みを推進する。また、2期北陸がんプロでは小・中学校教諭向けがんe-learning教材を作成し、北陸3県の小・中学校に無償配布を行った。本事業ではゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん等の内容を盛り込んだ教材の改訂を行い、北陸3県に加えて長野県や高校にも配布し、がん教育を支援する。全国的にも実態が把握されていない障がい者のがんや特にAYA世代のがん患者や家族において重大な問題となる妊孕性保存についても北信地域がんデータベースで実態を把握し、患者

や家族のための対策立案に取り組む。

キャリア教育・キャリア形成支援

北信がんプロでは教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行う。また、多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。2期北信がんプロで看護師の復帰支援の取組を行い実績を上げたが、連携施設間で他施設の長所を取り入れ、医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行う。

2. 達成目標・評価指標

教育プログラム・コースにより、本事業全体として、355名の医師、薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー等を輩出し、北信地域における超少子高齢化社会に対応した地域医療従事者の輩出および北信地域医療へ貢献する。

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

本科生コース 平成30年4月受入れ開始							
教育コース	対象	H30	H31	H32	H33	合計	
金沢大	先進的個別化医療	医師等	5	5	5	20	
	個別化薬物療法	薬剤師	1	2	2	7	
	高度化医学物理士	物理士	2	2	2	8	
信州大	ゲノムがん治療	医師	2	2	2	8	
	遺伝カウンセラー	多職種	1	1	1	4	
富山大	高齢がん患者対策	医師	4	4	4	16	
	個別化医療薬剤師	薬剤師	1	1	1	4	
福井大	地域がん専門医	医師	2	2	2	8	
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	2	2	2	8	
石川看護大	ライフステージ	看護師	2	2	2	8	
合計			22	23	23	91	
インテグレーションコース 平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）							
教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師等	2	6	6	6	26
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	2	2	7
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	10
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	9
	在宅緩和ケア	看護師	0	1	2	2	7
福井大	在宅栄養管理	医師等	0	12	22	22	78
	在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	96
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	22
合計			8	55	67	67	264
シンポジウム等（5年間）							
名称	参加校数	開催数	参加者数				
多職種連携	北信オンコロジーセミナー	6	18	6,500			
セミナー	ライフステージ事例検討会	6	30	4,500			
FD	海外FD研修	6	1回/校	30			
	FD講習会	6	3	90			
人材交流	国際シンポジウム	6	2	400			
	市民公開講座	6	5	1,000			
	地域医療機関での診療	6	3,000	3,000			
実態把握	北信地域がんデータベース	7種類以上の機能する疾患データ					

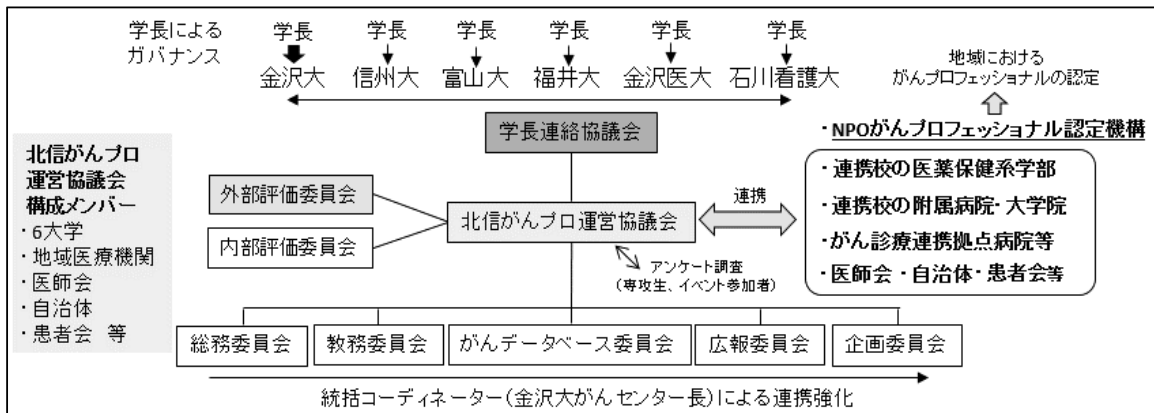
3. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

① 事業の実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる学長連絡協議会を設置し、事業の進捗を管理する。6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による運営協議会（年1回開催）を設置し、実際の意思決定及び運営を行う。さらに6大学

による総務委員会（ステアリングコミッティー）、教務委員会、がんデータベース委員会（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、広報委員会、企画委員会等を設置（年数回開催）し、実務を担当する。金沢大学がんセンター長が統括コーディネーターとして6大学の連携強化・調整を行う。



②事業の評価体制

内部評価委員会（研究科長等の内部有識者）及び外部評価委員会（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を立上げ、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北信がんプロ運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して事業計画を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、同様に事業内容改善を図る。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携6大学では学長連絡協議会・北信がんプロ運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした相互補完的教育プログラムのコースを設置する他、北信オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北信地域がんデータベースは金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネージメント部門）による電子入力システム（Ptoshを応用）構築で、円滑なデータ管理・運用が可能となるメリットがある。

また、本事業の実施にあたり、金沢大がん進展制御研究所、国立がん研究センター、がん拠点病院・医師会、患者会、海外連携施設、他のがんプロチーム、文科省人材養成プログラム等と連携する。金沢大がん進展制御研究所によりがんゲノム等の基礎知識教育を実施する。国立がん研究センター（金沢大が連携協定締結）が実施中のがん遺伝子解析事業（SCRUM-JAPAN）と連携し、分子標的薬等による個別化医療研究・医師主導治験に関する支援を受け北信がんプロ及び北信地域の先進的医療の推進を図る。シンガポール国立大や復旦大等の海外連携施設では教育・医療スタッフが海外FD研修（各大学が1回海外出向する）を受け、医療のグローバル化を見据えて教育・医療スタッフの能力向上を図るとともに、FD講習会により北信地域の医療従事者や北信がんプロの教育コース専攻生に教育成果を還元する。北信4県のがん拠点病院（28施設）や医師会との連携では北信地域がんデータベース作成の支援を受ける一方で、人材交流による地域がん医療レベルの向上に貢献する。また、合同市民公開講座開催で予防・検診受診による早期発見・早期治療・早期社会復帰の概念を市民に啓蒙・普及させる。4県の患者会とは運営協議会や市民公開講座を通じて患者の意見を広く取り入れることで、患者目線の医療立案に役立てる。他のがんプロチームとは合同シンポジウムを開催（H30年2月に名古屋大等と血

液がんシンポ開催予定)し、連携を深め本事業の普及を図る。他の文科省人材養成プログラム「(未来医療人材養成プログラム(金沢大・第三の道)、課題解決型高度医療人材養成プログラム(金沢大・北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン、信州大・次世代スーパードクターの育成)」とも合同シンポジウム等で人材交流・相互のプロジェクト内容の改善を図る。

全国規模の e-learning システムに参画し、新規教材作成に協力して本事業の情報発信を行う一方で、必須科目教材の提供を受ける。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

②事業成果の普及に関する計画

本事業で構築するがん医療人材育成システムは、将来の日本の超少子高齢化社会においても機能するがん医療人材育成モデルであり、国内のがん関連学会(日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会等)や市民公開講座、ホームページ、マスメディア(TV、新聞、雑誌等)等を通じて成果を発信し、国民に「がん教育・予防・検診受診促進・早期発見・早期治療・早期社会復帰」の意識付けができるよう啓蒙に努める。

北信がんプロの実施事業

大学院生・医療従事者向け

①全国 E クラウドによる e-learning 講義

インターネット環境があればどこでも学修できる e-learning 教材で最先端がんゲノム医療、小児・AYA 世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを、大学、地域の枠を超えて学修できるようにします。

②TV 会議システムによる遠隔演習

連携大学、がん診療連携拠点病院などで受講可能とした、TV 会議システムを介して北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により他施設・職種連携を推進します。

③北信がんデータベースの構築

特色ある症例を集めた「北信地域データベース」を構築し、受講生や教員が「学会・論文発表に活用するとともに、地域のがん対策に運用していきます。

教職員、受講生向け

④FD海外研修などのスタッフ研修

海外研修を実施し、最先端ゲノム医療や緩和ケア、グリーフケアなどを学んだ参加教員が、講習会を開いて最新の治療や緩和ケア等の情報共有を図ります。

大学間

⑤大学間

他エリアのがんプロ拠点や、人材育成プログラムと積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムを開催します。

市民向け

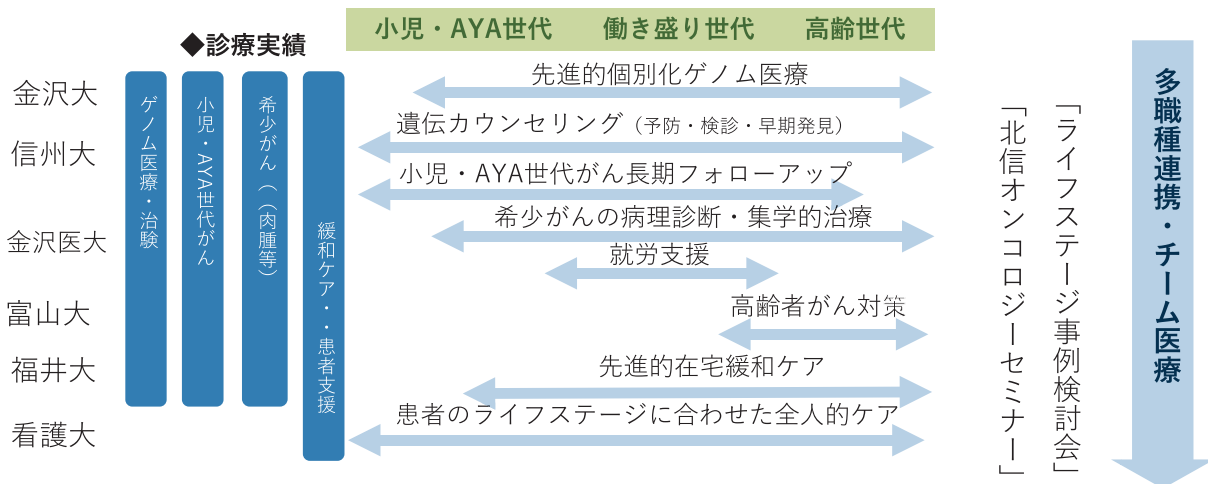
⑥市民啓発・がん教育

患者会や北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、公開講座やシンポジウムを開催して、がんに関する正しい理解の啓蒙と情報発信に努めます。

◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース (本科10コース、インテンシブ9コース)

多施設・多職種連携の演習

TV会議システム、
遠隔教育システム活用



特徴ある症例の地域がんデータベース構築

「将来の日本を映し出すデータベース」

大学院生による学会・英語論文発表

モチベーションを高め事業の求心力を保つ

社会に対する成果の発信・還元

⇒がん教育・予防・検診受診・早期発見・
早期治療・早期社会復帰へ

超少子高齢化地域で活躍する
先進的がん医療人



予防からケア、啓発まで

「将来の日本の
がん医療人育成モデル」

平成 29 年度 受入開始 教育コース一覧

■インテンシブコース

	教育コース
金沢大学	◆がんゲノム医療生涯教育コース 【医薬保健学総合研究科医学専攻】
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース 【医学薬学教育部】
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 専門的薬剤師養成コース 【医薬薬学教育部薬学専攻】
金沢医科大学	◆がん集学的治療医養成コース 【医学研究科生命医科学専攻】
石川県立看護大学	◆がんライフステージコース 【看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野】

平成 29 年度 受入実績

■インテンシブコース

	教育コース	開始時期	受入 目標	受入 実績
金沢大学	◆がんゲノム医療生涯教育コース	H29. 10 月～	2	1
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース	H29. 6 月～	2	2
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支える ことができる専門的薬剤師養成コース	H29. 10 月～	1	2
金沢医科大学	◆がん集学的治療医養成コース	H29. 10 月～	1	2
石川県立看護大学	◆がんライフステージコース	H29. 10 月～	2	3

※平成 30 年 3 月 15 日現在

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又はがんライフステージ事例検討会への参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会への参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て教育し、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師及び歯科医師は、多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師及び歯科医師	2	6	6	6	6	26
	計	2	6	6	6	6	26

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース(インテンシブ)						
対象者	各種医療機関で実際ががん診療に携わる医師						
修業年限(期間)	1年(延長可)						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医。スピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にも向き合える医師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>指定する北信がんプロフェッショナル授業科目の選択科目の中から、3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又は多職種連携セミナーへの参加による学習を行う。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(がんライフステージ事例検討会に5回出席で1単位)</p> <p>上記選択科目の他に下記科目も開講しています。</p> <p>腫瘍薬物学特論(1単位)、腫瘍放射線医学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、腫瘍病理学特論(1単位)、臨床腫瘍学特論(1単位)、がん外科学特論(1単位)、分子腫瘍学特論(1単位)、分子生物学入門(1単位)、臨床統計学特論(1単位)</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢担癌者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢担癌者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山大及び連携機関に所属する高齢者の代表的がんである肺癌の医療を専門とするエキスパートであるスタッフが、老年がん患者診療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する(e-learningやシンポジウム参加、TV会議システムで受講)。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できる高齢者がん診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）						
対象者	北陸3県及び長野県の病院及び薬局薬剤師、特に、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。						
修業年限（期間）	3カ月から1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん治療や緩和医療に加えて、地域包括ケア制度の策定と、高齢化に伴い、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して、間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高い在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位以上（必修科目4単位、選択科目2単位以上）の修得。</p> <p><履修方法>授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は、講義を実施するが、TV会議システムを活用し、金沢大学や他の地域へも公開する。在宅医療に関する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床疫学（2単位）、最先端医療（2単位）、AYA世代診療（2単位）、腫瘍学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、分子生物学入門（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義科目は、e-learningにより受講。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、平成30年度は講義を実施し、平成31年度以降はe-learningに移行する。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分も単位認定を行い、地域連携をする。						
指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究室 藤秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者は、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法に従事し、臨床研究への参画を期待している。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようにする。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	病院・薬局薬剤師及び薬系大学教員	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん集学的治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療などに造詣の深い医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信オンコロジーセミナーへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、TV会議システムを利用した北信オンコロジーセミナー又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム医療特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当施設が実地医療を担当している地域のがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療の教育機会を提供する点に新規性がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがん集学的治療のエキスパートであるスタッフが、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する（e-learningやシンポジウム参加、TV会議で受講）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できるがん集学的治療のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 ＜履修方法＞TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見を交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老人看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22

平成 30 年度 受入開始 教育コース一覧

■本科生コース

	教育コース
金沢大学	◆先端的個別化医療コース 【医薬保健学総合研究科医学専攻】
	◆がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース 【医薬保健学総合研究科薬学専攻】
	◆個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース 【医薬保健学総合研究科保健学専攻】
信州大学	◆ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース 【総合医理工学研究科】
	◆がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース 【医学系研究科医科学専攻】
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻】
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 高度薬剤師養成コース 【医学薬学教育部薬学専攻】
福井大学	◆地域がん専門医養成コース 【医学系研究科統合先進医学専攻】
金沢医科大学	◆がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース 【医学研究科生命医科学専攻】
石川看護大学	◆がんライフステージコース 【看護学研究科(博士前期課程) 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野】

■インテンシブコース

	教育コース
金沢大学	◆がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース 【医薬保健学総合研究科薬学専攻】
富山大学	◆在宅がん緩和リハビリテーションコース 【医学薬学教育(博士前期課程)医学領域看護学専攻成人看護学分野】
福井大学	◆在宅栄養管理コース 【医学部】
	◆在宅緩和医療コース 【医学部】

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース						
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療（手術、放射線、薬物治療等）を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目のうち、選択必修科目5単位を含む10単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習（1単位）ほか10科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の個別化医療は主に遺伝子解析に基づく薬物療法であったが、本コースでは、今後のわが国で必要とされる遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て北信がんプロ科目において学習し、実践できる能力を養う点に独創性がある。演習で、金沢大学附属病院において実施されている医師主導治験や先進医療等の実際を学ぶ（先端医療開発センターや国立がんセンターと連携）。選択演習として、ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端の基礎を実際に行う（がん進展制御研究所との連携）プランを設定するところにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやTV会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献するとともに、高額な薬剤の有効利用により医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース						
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位〔選択必修の基礎科目2単位、実習、演習科目1単位を含む〕を修得すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。スクーリング、TV会議によるセミナー、演習等の中から選択して履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目（基礎科目）>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）</p> <p><選択必修科目（実習、演習科目）>先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、がんリスクマネジメント実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか4科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国的にも非常に少ない6年制学士課程の本コース入学者が、将来の薬剤師の教育者、研究者・指導者となること目標とし、がん個別化薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかる点に独創性がある。患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に必要な薬剤師のスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・職種の壁を越えて教育し、多職種連携のリーダーとなる薬剤師を養成するところに新規性がある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等でon-the-jobトレーニングにより指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。更に、がん薬物療法の個別化及び安全性向上を実践し、ん薬物療法及び地域包括ケアを推進する多職種連携のリーダーとなる薬剤師のキャリア形成につながる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（インテンシブ）						
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。						
修業年限（期間）	3月から1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。						
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又はがんライフステージ事例検討会への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）等						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求されるスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・施設間の壁を越えて、受講者の能力・ニーズに応じた教育を受けられることにある。そのために、先進的がん薬物療法個別化実習では、受講者がそれぞれの能力・ニーズに合致する実習ユニット（個別化薬物療法、在宅緩和医療、病院がん薬物療法、先進的注射薬管理、フィジカルアセスメントなど）が選択できる。また、有害事象解析演習については、TV会議システムを用いて、北信がんプロ参加大学間で協働して実施する。このユニットは、教育プログラムを発展させ、大学間多職種参加型研究プロジェクトとして、がん薬物療法の有害事象対策を多職種連携により確立することを目指すことによって、エビデンスを発信するスキルも学べる点に新規性・独創性がある						
指導体制	本コースでは、がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する薬学系教員・薬剤師が、臨床現場において、on-the-jobトレーニングにより指導する。また、e-learningを活用した受講者の能動的学習を促し、実習により知識を定着化させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者には、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。さらには、地域において、がん・緩和薬物療法の個別化および安全性を向上させ、地域包括ケアの牽引者となる。そして、それらの経験を生かし、薬剤師や薬学生に対する講義、実習を行うことで、次世代の医療者の育成者となる						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース						
対象者	医薬保健総合研究科（博士後期課程）保健学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を実践できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>機能画像解析学特別研究もしくは量子診療技術学特別研究（6単位）、放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）を必修とすること、及びその他、北信がんプロフェッショナル授業科目2単位以上を履修することとし、合計12単位以上の修得が必要。また、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）、機能画像解析学特別研究もしくは量子診療技術学特別研究（6単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、コンサルテーション論（2単位）、分子生物学入門（1単位）、医療統計学特論（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2期までのがんプロで放射線治療技術の底上げを目指した教育により、放射線治療技術の均てん化は進んできた。その為、2期がんプロのがん専門放射線技術・医療物理コースを改修し、放射線治療技術の更なる高度化や個別化医療に資する人材を育成することを目指す。本コースはその点に新規性がある。また、より高精度な放射線治療技術及び個別化放射線治療の包括的な知識を習得させ、自身で個別化要因を洗い出し、研究を計画・実施・評価できる能力を養う点に独創性がある。金沢大学附属病院におけるon-the-jobトレーニング演習と北陸オンコロジーセミナー等への参加により、より実践的な技術及びがん治療の全体像を学習する点に特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻と金沢大学附属病院の教員やがんプロ卒業生により直接on-the-jobトレーニングを行う。e-learningやTV会議等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について、連携協議会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、世界水準の研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における研究及び放射線治療の品質管理のリーダーとして貢献する。得られた知識や研究からの副作用の少ない放射線治療を医師と共同で実践し医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院総合医理工学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース						
対象者	総合医理工学研究科医学系専攻及び生命医工学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	1) 遺伝性・家族性のがんを含めた幅広いがん治療に精通する医師、2) 個別化医療やゲノム医療の実験を経験し、その重要性を理解し、その推進に関わることができる医師 3) 個別化医療やゲノム医療へのリサーチマインドを有する医師						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>医学系専攻または生命医工学専攻の修了要件計32単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>各専攻の対象専門科目を履修し、コース必修のe-learning科目の履修、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>医学系専攻</p> <p><研究科共通科目>先鋭領域融合研究群最先端研究特講（2単位）</p> <p><専攻共通科目>生命倫理・研究倫理特論（2単位）、医学統計・疫学特論（2単位）、生涯保健学研究法特論（2単位）</p> <p><分野共通科目>医科学研究遂行特論（2単位）ほか6科目</p> <p><専門科目>論文演習（2単位）、特別研究（10単位）、ほかがん・ゲノム関係科目</p> <p>生命医工学専攻</p> <p><研究科共通科目>先鋭領域融合研究群最先端研究特講（2単位）</p> <p><専攻共通科目>社会医工学特論（2単位）、イノベーションセミナー（2単位）</p> <p><分野共通科目>特別演習Ⅰ（2単位）、特別演習Ⅱ（2単位）</p> <p><専門科目>特別演習Ⅲ（4単位）、生命倫理・研究倫理特論（2単位）、医科学研究遂行特論（2単位）、ほかがん・ゲノム関係科目</p> <p>両専攻共通</p> <p><コース必修科目>がんゲノム医療（1単位）、小児・AYA・希少がん（1単位）、ライフステージに応じたがん医療（1単位）〔全国共通e-learning科目〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当研究科では 1)先のがんプロ事業で新規講座を開設し、その担当診療科で、AYA世代から高齢者に渡り、多がん種のがん診療を行う体制を整備した。2)小児の血液がんおよび悪性腫瘍の診療・研究・指導体制が充実している。3)附属病院遺伝診療研究センターで、遺伝性・家族性腫瘍患者のデータベースおよび診療が整備されている。4)附属病院ではゲノム医療推進の試みとしてクリニカルシーケンス開設の準備中である。5)このコースでは、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成する。						
指導体制	当研究科は従来より大学院生に対して主および副担任制度を設けている。本コースに配属する大学院生に関しては必ずコーディネイターおよび事業推進委員のどちらかの担任となり指導体制をとる。事業推進委員の各教室が連携して幅広い領域の臨床研鑽を可能とし、研究指導を行う。なお、本学医学系研究科（博士課程）は、平成30年度に総合工学系研究科とともに「総合理医工学研究科」を設置すべく準備中であり、新たな研究科の中で人材養成を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当施設は先のがんプロにおいて大学院修了者を県内の地域がん拠点病院に輩出（2名）及び学内で指導者（2名）として雇用している実績がある。また当附属病院は都道府県がん拠点病院としての責務もあり、院外からも多くの若手がん治療医の短期研修（総勢3名）の受け入れをし、がん薬物療法専門医等の受験資格までの指導を行ってきた。この事業でも修了者は、県内7か所の地域がん診療連携拠点病院との人材ネットワークの中核として県内全体のがん研究・診療の向上に寄与させる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース						
対象者	医学系研究科（修士課程）医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	認定遺伝カウンセラー資格を取得できる能力を身につけた医療人。 家族性・遺伝性がん診療における遺伝カウンセリングの重要性を理解でき、臨床の現場で実践できる医療人。 がん診療におけるクリニカルシーケンスの意義を理解し、臨床の現場で実践できる医療人。 遺伝性がんに関するリサーチマインドを有する医療人。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 遺伝カウンセリングコースの科目（修士課程必修科目26単位、修士課程選択必修科目4単位、計30単位及びコース必修科目23単位）に選択科目として臨床腫瘍学、がんサロン実習等を加え、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーとなるに相応しい能力があることを試験により確認する。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目> 医科学研究概論（1単位）、生命倫理・医学概論（3単位）、健康科学概論（1単位）、人間機能・形態学概論（1単位）、ほか8科目</p> <p><選択必修科目> 医科学研究方法論演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位）</p> <p><コース必修科目> 基礎人類遺伝学（4単位）、遺伝医学（1単位）、染色体検査実習（1単位）、遺伝カウンセリングロールプレイ（2単位）、ほか6科目</p> <p><コース選択科目> ライフサイエンス知的財産概論（2単位）、医学科臨床腫瘍学（2単位）、臨床腫瘍学研究特論（2単位）、がんサロン実習（6単位）、ほか4科目</p> <p>全国共通のe-learning科目〔がんゲノム医療（1単位）、小児・AYA・希少がん（1単位）、ライフステージに応じたがん医療（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに15名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、長崎県、岡山県、福岡県、福島県2名、兵庫県、奈良県、新潟県、大分県）に輩出してきた。このコースでは、従来存在するコースの履修内容に追加して、がんに関する講義と実習の場を選択的に設定することで、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成する。北陸5大学との連携により、広報に努め、北陸地方からの応募者を積極的に受け入れる。						
指導体制	従来の修士課程遺伝カウンセリングコースでは、遺伝医学・予防医学教室及び附属病院遺伝子医療研究センターの教員が、担任として、ほぼマンツーマンの体制で指導し、認定遺伝カウンセラーを養成してきたが、今回開設する「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース」では、遺伝医学・予防医学教室、附属病院遺伝子医療研究センターに加えて包括的がん治療学教室及び小児医学教室の教員が副担任となり、学生の指導にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、臨床の現場特に当院で始めるクリニカルシーケンスの現場に携わる医療人を指す。また、関連施設で、遺伝子性のがん診療の現場で遺伝カウンセリングに対応し、遺伝性腫瘍の疫学、臨床研究に参加・関与・推進する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	カウンセラー	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース						
対象者	医学薬学教育部大学院学生、医学科研究医養成コース履修者（学部学生）						
修業年限（期間）	4年（学部2年）						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目26単位以上、選択科目8単位以上合計34単位以上を履修し、高齢がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>臨床薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、医学特論（4単位）、医学演習（4単位）、医学特別研究（14単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、がん外科学特論（1単位）、分子生物学入門（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）</p> <p>注：他大学の授業科目履修は10単位まで認められる。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢がん者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢がん者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山県を含む北信地域は国内でも高齢化率が高い地域で、本プログラムを行う地盤は充実している。富山大学では大学病院でありながら地方の特性を生かし、地域密着型の診療を行っている。在宅療養を目指した地域連携を強化しており、高齢がん患者の看取りまでを踏まえた指導を実現する。富山大学では学部生に対し、研究医養成コースを設けており、このコース学生を本プログラムの対象とすることにより、専門医教育の底辺拡張を目指す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	e-learningを含む座学による知識習得のほかに、実際の症例を検討する北信オンコロジーセミナーや高齢がん患者の診療を通して専門医としてのスキルを習得する。さらに、北信地域の高齢がんの実態を調査するデータベース研究を展開し、リサーチの実践にも取り組む。コース修了者は地域において最も重要な高齢がん患者診療のプロとして機能するほか、研究を発展させて他地域、次世代への貢献も期待される。						
受入開始時期	平成30年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	学部学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース						
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>がん化学療法ほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。</p>						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>所属専攻の修了要件単位数（30単位）に加え、北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目5単位、選択単位1単位以上）を修得し、合計36単位の修得及び、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p><履修用法>授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論、がん緩和医療学特論、腫瘍放射線医学特論、腫瘍病理学特論、臨床腫瘍学特論、分子生物学入門（各1単位）、臨床疫学、最先端医療、AYA世代診療、腫瘍学（各2単位）、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論（各1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。</p>						
指導体制	<p>富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年制薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。</p>						
受入開始時期	平成30年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部（博士前期課程） 医学領域看護学専攻成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	在宅がん緩和リハビリテーションコース（インテンシブ）						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目指して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージの個人、家族、及び集団に対して、総合的な判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養い、全人的緩和医療が行える看護師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目：在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）、「公開講座」又は「実技演習」（1単位）、選択科目の中から1科目（1単位）以上の合計3単位以上修得。</p> <p><履修方法></p> <p>【必修科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）：北信4県におけるTV会議システムを利用したがんライフステージ事例検討会や富山がん事例検討会に5回以上参加により単位認定。 「公開講座」又は「実技演習」（1単位）：富山大学にて開催される、公開講座あるいは、実技演習に1回以上参加することにより単位認定 <p>【選択科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> e-learning「がん緩和医療学特論」「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「分子腫瘍学特論」「臨床栄養学特論」「分子生物学入門」「在宅緩和医療特論」「がん患者看護論」「コンサルテーション論」より1単位以上修得。 <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）、「公開講座」又は「実技演習」（1単位）</p> <p><選択科目>e-learning「がん緩和医療学特論」「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「分子腫瘍学特論」「臨床栄養学特論」「分子生物学入門」「在宅緩和医療特論」「がん患者看護論」「コンサルテーション論」より1単位以上修得。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北信4県におけるTV会議システムを利用したがんライフステージ事例検討会や富山がん事例検討会にて、緩和ケア・がんリハビリ、在宅療法、化学療法中患者等の困難事例について意見交換を行うとともに、e-learning科目・演習を通して、在宅医療における患者・家族のQOL向上・症状コントロールを図るための知識・技術を得る点に特色がある。						
指導体制	北信4県のがん看護専門看護師を中心に、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどそれぞれの立場から意見交換や講義演習を実施する。 講義科目は、e-learningにより受講する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者にはNPOがんプロフェッショナル認定機構より、「在宅がん緩和リハビリテーション・スペシャリスト」（仮）の認定証を授与する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース						
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成、本学の特色を活かした緩和ケアや在宅医療にも精通する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>がんプロフェッショナル授業科目の必須科目5単位を含む10単位以上を取得すること。がんに関する研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。（e-Learning科目の単位認定は、e-Learning科目+オンコロジーセミナー（演習）出席にて、1単位とする。）</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床統計学演習（1単位）</p> <p><選択科目>がん緩和医療学特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん患者看護論（1単位）、がん患者看護論Ⅱ（1単位）、がん外科学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、腫瘍病理学演習（1単位）、医学物理学特論（1単位）、コンサルテーション論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA・希少がん特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本学大学院の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門の科目に加え北信がんプロ養成プログラムの科目を履修することにより、地域におけるがん診療力の高度な知識を修得できる。						
指導体制	福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の教職員が対応する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修の修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養パスの効率的な利用も必要である。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設における、NST専門療法師資格取得のための20時間以上の研修は、NST専門療法師資格取得にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位の修得。かつ、がんプロが実施するオンコロジーセミナーに2回以上参加または、指定する研修等へ参加すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>在宅栄養特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんプロが実施するオンコロジーセミナー2回以上の参加 ・日本静脈経腸栄養学会認定教育施設にて20時間以上の研修 ・（医師）日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。 ・（医師以外のスタッフ）日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師セミナー受講。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	在宅緩和医療を推進する上で最も重要な技術は栄養管理である。全ての慢性疾患で在宅医療での栄養指標を高く維持するためには一定以上の技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフが同じ教育を受けることで、在宅栄養管理パスが機能し、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高い在宅医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。日本静脈経腸栄養学会北陸支部会、TNT委員会もサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法師資格の取得をめざすことができる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	医師以外	/	10	20	20	20	70
	計	0	12	22	22	22	78

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位の修得。かつ、がんプロが実施するオンコロジーセミナーに2回以上参加または国の定める緩和ケア研修会を受講すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>がん緩和医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんプロが実施するオンコロジーセミナー2回以上の参加 ・国の定める緩和ケア研修会の受講。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。在宅栄養にも重点をおく。						
指導体制	大学緩和ケアチームと緩和医療学会専門医、認定医、暫定指導医が中心に教育を行う。緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	4	4	4	4	16
	医師以外のスタッフ	/	20	20	20	20	80
	計	0	24	24	24	24	96

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース						
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望を叶えられるように努力できる、がん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>博士課程に4年以上在学し、所定の単位数（30単位）以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士（医学）を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目10単位を含む13単位を修得をもって大学院修了単位の11単位に読み替えし、独自に設立されるNPO法人の認定医の申請資格を授与する。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>主として専攻する科目の講義・演習・実験実習（各4単位、計12単位）、特別研究（6単位）、医の倫理または生命倫理学（各1単位）のほか、以下に掲げる専門医養成コースの授業科目13単位以上</p> <p><必修科目>がんゲノム医療学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、がん外科学特論（1単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、臨床統計学演習（1単位）、分子生物学入門（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）ほか6科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢医科大学病院再生医療センターにおける希少がん等対象の免疫療法・再生医療、集学的医療部遺伝子医療センターにおける遺伝カウンセリングにおける独自の教育内容を有する。また金沢医科大大学院医学研究科腫瘍内科学/金沢医科大学病院腫瘍内科では肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明癌などの臓器横断的分野の診療・教育・研究を行っている。						
指導体制	腫瘍内科学：元雄 良治、安本和生、再生医療学：下平 滋隆、先進呼吸器外科学：浦本 秀隆、消化器外科治療学：小坂 健夫、遺伝子医療センター：新井田 要、をはじめとする本施設の教育スタッフが指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育コースの修了者は、各専門分野の専門医・認定医等の資格を取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	がん看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目 <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、住宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リエゾン看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了には北信がんプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」（仮）の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がんプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

第Ⅱ部 実績および成果

平成 29 年度がんプロ行事一覧

月	日	行事	内容	大学
4	3	C B	・多科合同悪性腫瘍症例検討会 (がんサロンの)	福井大学
	5	F D	・がん診療推進センター講習会 「胃癌周術期化学療法」	福井大学
	5	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	7	C B	・多科合同悪性腫瘍症例検討会 (がんサロンの)	福井大学
	12	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	13	F D	・がん診療推進センター講習会 「大腸がん後方ライン治療」	福井大学
	18	F D	・がん診療推進センター講習会 「免疫チェックポイント阻害薬」 「チームでの irAE マネジメント」	福井大学
	19	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「金大がんセンターの最新治療」	金沢大学
	19	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	21	F D	・がん診療推進センター講習会 「がん医療におけるコミュニケーション」	福井大学
	24	C B	・第1回がんサロンの症例検討会 「①縦隔原発の Growing Teratoma の1例」 「②貧血・黒色便で発症した十二指腸癌の1例」	信州大学
	24	F D	・がん診療推進センター講習会 「市中病院における膵癌診療の現状」 「局所進行膵癌における術前治療としての GnP 療法」	福井大学
	26	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	26	F D	・がん診療推進センター講習会 「進行再発大腸がんに対する2次治療」	福井大学
	27	F D	・がん診療推進センター講習会 「OIC 治療の重要性 ～スインブロイク錠経口末梢性オピオイド受容体拮抗薬～」	福井大学
	5	10	C B	・緩和ケアチームカンファレンス
17		がんサロン	・がんサロンハーモニー 「在宅医療～家で明らかに過ごすために～」	金沢大学
17		C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
22		C B	・第2回がんサロンの症例検討会 「①脳転移を来した ALK 遺伝子転座陽性非小細胞肺癌の治療例」 「②エピルピシンの血管外漏出に対して、デクスラズキサンを使用した1例」	信州大学
24		F D	・がん診療推進センター講習会 「アブストラクタル舌下錠を安全に運用するための取り組み」	福井大学
24		C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
31		C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
6	1	市民公開講座	・市民公開講座 「乳がん～早く見つけて直しましょう～」	信州大学
	6	看護CB	・第1回がんライフステージ事例検討会 「認知機能が低下している患者の治療選択について考える」	富山大学
	7	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	8	F D	・がん診療推進センター講習会 「米国臨床腫瘍学会 2017 の最新情報共有・クリニカルクエスト」	福井大学
	14	F D	・がん診療推進センター講習会 「大腸癌ガイドライン上の位置づけ・Late Line の切り替えの タイミング・抗腫瘍効果の判断で重要な点・多剤との使い分け」	福井大学
	14	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	20	広 報	・3期がんプロ採択についての記者発表	
	21		・新聞掲載 (北國新聞) 「3期がんプロ採択記事掲載」	
	21	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「がんの脊椎移転 ～ドクターXにも出た金沢発の最先端手術はこれだ!～」	金沢大学
21	F D	・がん診療推進センター講習会	福井大学	

6	2 1	C B	「肺がん診療ガイドラインとFN マネジメント」 「外来化学療法における薬剤師の役割」 ・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 6	C B	・第3回がんサロンの症例検討会 「①放射線照射直後に再燃した微小な骨髄浸潤を伴う孤立性形質細胞腫の1例」 「②低侵蝕脊椎固定術後 PS の改善が認められた化学療法を継続しえた乳癌の1例」	信州大学
	2 7	会 議	・北信がんプロコーディネーター会議	
	2 8	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 9	F D	・第37回がん拠点病院と連携した研修会 「大腸がん化学療法の現況と展望」 「乳がん治療の最前線」	金沢大学
7	2	F D	・公開講座 「グリーンケアの理解とナースに求められること」	石川県立看護大学
	3	F D	・がん診療推進センター講習会 「メサペイン錠とWHO方式3段階除痛ラダー」 「大腸がん治療における抗EGFR抗体薬の役割と適切な投与」 「抗EGFR抗体薬の皮膚障害」	福井大学
	3	C B	・多科合同悪性腫瘍症例検討会（がんサロンのカンファレンス）	福井大学
	4	看護CB	・第2回がんライフステージ事例検討会 「在宅酸素療法を受け入れ困難であった症例との関わりを振り返る～その人らしさを大切に～」	石川県立看護大学
	5	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	1 2	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	1 9	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「『元ちゃんハウス』ってどんなところ？」	金沢大学
	1 9	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 0	会 議	・全国がんプロ協議会総会	
	2 0	会 議	・第1回がんプロ全国e-learning クラウド拠点会議	
	2 4	C B	・第4回がんサロンの症例検討会 「①相澤病院と連携し陽子線治療を施行した小児悪性腫瘍の3例」 「②脳室内に発生したhemangiopericytomaの1症例」	信州大学
	2 6	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
2 8	F D	・がん診療推進センター講習会 「大腸がん治療における抗EGFR抗体薬の治療選択」	福井大学	
8	1	看護CB	・第3回がんライフステージ事例検討会 「終末期がん患者の退院支援」	福井大学
	2	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	3	会 議	・学内組織委員会	
	9	会 議	・北信がんプロコーディネーター会議	
	9	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	1 2	F D	・研修「CNS関係者によるがん看護事例検討会」	石川県立看護大学
	1 4	その他	・全国がんプロ協議会ゲノム医療ワーキング	
	1 6	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 2	会 議	・第1回運営会議	
	2 3	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 8	C B	・第5回がんサロンの症例検討会 「①術前化学療法が奏功し、完全切除し得た胸腺癌の1例」 「②分子標的薬治療後に頭蓋底穿孔を来した腎癌頭蓋底転移の1例」	信州大学
	3 0	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
3 1	市民公開講座	・市民公開講座 「がんと生きる～暮らしと両立のために～」	信州大学	
9	1	その他	・北陸緩和医療研究会	富山大学
	3	その他	・子宮頸がん予防啓発プロジェクト 「愛は子宮を救う in 長野」	信州大学
	4	会 議	・第1回総務委員会	

9	4	F D	・がん診療推進センター講習会 「ガイドラインに基づいた進行・再発乳がんにおける支持療法の役割」	福井大学
	6	C B	・第1回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	信州大学
	6	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	8	広 報	・北信がんプロパンフレット完成	
	9	F D	・公開FD研修「臨床で行うリンパ腫瘍のケア」	石川県立看護大学
	9	市民公開講座	・市民公開講座 「信州大学がん哲学外来 in 軽井沢」	信州大学
	13	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	18	キックオフ ミーティング	・北信がんプロキックオフミーティング	
	18	会 議	・学長連絡協議会	
	18	会 議	・北信がんプロ運営協議会	
	20	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「がんとヨーガ療法」	金沢大学
	20	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	22	会 議	・第2回在宅緩和ケア推進会議	福井大学
	22	会 議	・第2回がんプロ全国 e-learning クラウド拠点会議	
	25	C B	・第6回がんセンターボード症例検討会 「①随伴性脾炎により脾動脈瘤破裂をきたし、治療に難渋した非切除脾頭部癌の1例」 「②術前化学療法により妊娠期間を延長し、生児を得た子宮頸部腺扁平上皮癌の1例」	信州大学
	25	会 議	・北信がんプロ第1回教務委員会	
	26	F D	・金沢大学がん進展制御研究所・北信がんプロ共催 国際セミナー	金沢大学
	26		・新聞掲載（北國新聞） 「10/9開催の市民公開講座開催案内」	
	26	C B	・多科合同悪性腫瘍症例検討会（がんセンターボード）	福井大学
	27	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
29	F D	・がん診療推進センター講習会 「切除不能・進行再発大腸癌後方ライン治療の新たな治療戦略」	福井大学	
30～ 10/1	F D	・がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会	富山大学	
10	3	会 議	・第1回がんプロ担当者打ち合わせ会議	金沢医科大学
	3	看護CB	・第4回がんライフステージ事例検討会 「疼痛緩和困難患者への対応 ーアセスメントと、マネジメントの視点からー」	石川県立看護大学
	4	C B	・第2回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	信州大学
	4	F D	・がん診療推進センター講習会 「大腸癌における個別化治療」	福井大学
	4	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	5	会 議	・第1回がんデータベース委員会	
	5	F D	・がん診療推進センター講習会 「悪性南部腫瘍に対する化学療法」	福井大学
	9	市民公開講座	・北信がんプロ金沢医科大学市民公開講座 「がんゲノム医療を知ろう：最適の治療を受けるために」 ・第26回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「ゲノムシークエンスによって発がん過程を解き明かす」	金沢医科大学
	11	F D	・新聞掲載（北國新聞） 「10/9開催の市民公開講座報告」	金沢医科大学
	11	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	11	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「笑顔になるメイク～体験して伝えたいこと～」	金沢大学
	18	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	22	F D	・FD研修「CNS関係者によるがん看護事例検討会」	石川県立看護大学
	23	C B	・第7回がんセンターボード症例検討会 「①ベキサロテン（タルグレチン®）を投与した菌状息肉症の1例」 「②心疾患既往のある下咽頭癌症例の治療方針について」	信州大学

10	25	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	25 ～26	その他	・金沢大学がん進展制御研究所50周年記念国際シンポジウム	金沢大学
	26	その他	・特別講義 「臨床研究事案から学ぶCO管理」	金沢大学
	28	F D	・平成29年度北信がんプロ人材育成セミナー 「暮らしやすい地域づくりにいかす“聞き書き”」	富山大学
	29	市民公開講座	・北信がんプロ金沢大学市民公開講座 「がんになって考える？がんになる前に考える？」	金沢大学
11	30	C B	・臨時開催がんサポーターボード症例検討会 「17歳の横紋筋肉腫症例の治療について」	信州大学
	1	C B	・第3回がんクリニカルシーケンス外来定期検討会	信州大学
	1	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	7	看護CB	・第5回がんライフステージ事例検討会 「悪い知らせを伝えられないまま終末期を迎えた患者と家族のかかわり」	石川県立看護大学
	8	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	9	F D	・第38回がん拠点病院と連携した研修会 「医療の質保証に向けた効率的・効果的なパスの運用」 「乳がん治療としての乳房再建～広がる選択肢～」	金沢大学
	9	会議	・第2回がんプロ担当者打ち合わせ会議	金沢医科大学
	12	市民公開講座	・北信がんプロ市民公開講座 「がん化学療法（抗がん剤治療）における腫瘍内科医の役割」	信州大学
	14	F D	・がん診療推進センター講習会	福井大学
	15	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「緩和ケアセンターについて～がん哲学外来を含めて～」	金沢大学
	15	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	20	F D	・がん診療推進センター講習会 「進行再発胃癌二次治療の新たな治療戦略」	福井大学
	21	F D	・第27回腫瘍病理セミナー・金沢女性がん研究者フォーラム・北信がんプロFD講演会 「炎症依存的な胃癌がんモデルマウスを用いた研究」 「子宮で発症する癌と Pten の関係-マウスモデルを用いた解析-」 「病理組織検体のオミックス解析に基づくがんの個別化医療開発とその実装」	金沢医科大学
	22	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	24	F D	・北信がんプロ 看護セミナー 「地域で暮らすがん患者への支援」	福井大学
	27	C B	・第8回がんサポーターボード症例検討会 「①Pegfilgrastim 投与後に高熱、CRP 上昇と動脈炎所見を認めた1例」 「②Hyperleukocytosis を呈した小児血液腫瘍の6例」	信州大学
	29	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	30	F D	・がん診療推進センター講習会 「当院における静脈血栓塞栓症の実際」 「がんと血栓症～腫瘍循環器科におけるVTE治療戦略」	福井大学
	30	F D	・第2回先進呼吸器外科学セミナー・北信がんプロFD講演会 「精密医療のその先に～がん治療新時代の全人的医療とその課題～」	金沢医科大学
	30	会議	・がんプロ全国 e-learning クラウド boost 会議	
	30		・新聞掲載（北國新聞） 「10/29 開催の合同市民公開講座報告」	
12	2	F D	・日本臨床腫瘍学会 第8回北信越地区セミナー	信州大学
	5	会議	・北信がんプロ第2回総務委員会・教務委員会	
	5	看護CB	・第6回がんライフステージ事例検討会 「病状説明後、せん妄が出現した患者への関わり」	石川県立看護大学
	6	C B	・第4回がんクリニカルシーケンス外来定期検討会	信州大学
	6	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	6	F D	・第28回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「Pathology of Paget disease of bone and Paget sarcoma」	金沢医科大学
	8	オンコロジーセミナー	・第1回北信がんプロオンコロジーセミナー 「がん研究が導くゲノム医療」	金沢大学

1 2	1 2	F D	・がん診療推進センター講習会 「医師に求められる Evidence と Narrative ～婦人科がん治療現場での実践に学ぶ～」	福井大学
	1 3	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	1 3	F D	・第29回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「小児脳腫瘍における分子メカニズム解析」	金沢医科大学
	1 6	市民公開講座	・富山大学附属病院市民公開講座 「大きく変わった消化器がん治療と予防」	富山大学
	1 6	市民公開講座	・北信がんプロ金沢医科大学市民公開講座 「がん免疫療法を知らう～自分に最適な治療を求めて～」	金沢医科大学
	1 6 ～17	F D	・エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座 看取り「苦手意識」から「関わる自信」へ	富山大学
	1 7	その他	・北信がんプロがん専門医療人材養成プラン 県民公開シンポジウム 「がん診療最前線」	福井大学
	1 7		・新聞掲載（北國新聞） 「12/16開催の市民公開講座報告」	
	2 0	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「検査データの見方」	金沢大学
	2 0	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 4	F D	・北信がんプロ看護セミナー	福井大学
	2 5	C B	・第9回がんボード症例検討会 「①Malignant Fungating Woundを伴う巨大殿部悪性軟部腫瘍の1例」 「②胸腺腫関連GVHD 様皮疹を発症し、在宅医療連携を行っている1例」	信州大学
	2 7	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 7	会議	・第3回がんプロ担当者打ち合わせ会議	金沢医科大学
1	7～ 3/31		・テレビ放送（金沢ケーブルテレビネット） 毎週日曜日 14：00～15：00 『がんプロアワー』 市民公開講座「がんになって考える？がんになる前に考える？」のダイジェスト版を放送	
	1 0	C B	・多科合同悪性腫瘍症例検討会（がんボード）	福井大学
	1 0	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	1 1	C B	・第5回がんクリニカルシーケンス外来定期検討会	信州大学
	1 7	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「あなたの気持ち、ちゃんと伝えてますか？ ～がんと向き合うためのアドバンス・ケア・プランニング～」	金沢大学
	1 7	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	1 8	会議	・第3回総務委員会	
	1 9	広報	・がんプロニュース1月号発行	
	2 2	C B	・第10回がんボード症例検討会	信州大学
	2 2	F D	・がん診療推進センター講習会 「膵消化管NETに対するユニットの役割と集学的治療」	福井大学
	2 4	C B	・緩和ケアチームカンファレンス	福井大学
	2 6	F D	・腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「がんを理解するためのゲノム科学と人工知能」	金沢医科大学
	2 7	F D	・緩和ケアフォローアップ研修会	富山大学
	2 8	F D	・FD・SD研修 「ケアの意味を見つめる事例研究」	石川県立看護大学
	2 8		・新聞掲載（福井新聞） 「12/17開催の県民公開シンポジウム報告」	
	2 9	その他	・全国がんプロ合同フォーラム	
	2	2 9	F D	・がん診療推進センター講習会 「Liquid Biopsy によるがん診療のパラダイムシフト」
6		看護CB	・第7回がんライフステージ事例検討会 「がん終末期にBad Newsを拒否した患者と家族のケア」 →悪天候のため、3月に延期	石川県立看護大学
7		C B	・第6回がんクリニカルシーケンス外来定期検討会	信州大学
1 2 ～17		F D	・海外FD研修 アメリカ/ワシントンDC視察	
1 5	市民公開講座	・市民公開講座	信州大学	

2	17	C B	「肺がん内科治療～個別化治療のために～」 ・看護実践セミナー 「臨床で行うリンパ浮腫のケアアドバンス編」	石川県立看護大学
	18	市民公開講座	・富山大学附属病院市民公開講座 「緩和ケア市民公開講座 私、がんになるなんて」	富山大学
	19	会議	・第3回教務委員会	
	20	会議	・第1回広報委員会	
	21	がんサロン	・がんサロンハーモニー 「自分らしい生活を続けよう ～がん治療中の食事・趣味・ペットとの付き合い方～」	金沢大学
	21	C B	・小児血液がんセミナーin 中部 プレ症例検討会	
	24	F D	・SD講演会 「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」	石川県立看護大学
	26	C B	・第11回がんセミナーin 中部 プレ症例検討会	信州大学
	27	C B	・小児血液・がんセミナーin 中部 「成熟奇形腫と胎児型横紋筋肉腫の二つの病理像を認めた 後腹膜腫瘍の一例」 「CML 治療の現状」 「低低2倍体の急性リンパ性白血病の2例」 「小児血液・がん領域におけるキメラ抗原受容体遺伝子導入 T細胞 (CAR-T 細胞) 療法」	名古屋大学
	3	1	F D	・第39回がん拠点病院と連携した研修会 「がん患者の就労について」 「小線源治療」 「長期生存が可能になった免疫チェックポイント阻害薬による 肺癌治療」
3		市民公開講座	・富山大学附属病院市民公開講座 「がん患者と家族のための講演会 学ぼう新しいがんの知識 ダヴィンチで新時代の手術へ」	富山大学
4		F D	・都道府県がん診療連携拠点病院 医療者研修会 「信大病院におけるがんゲノム医療推進の試み」	信州大学
6		看護CB	・第8回がんライフステージ事例検討会 「がん終末期に Bad News を拒否した患者と家族のケア」	石川県立看護大学
7		C B	・第7回がんクリニカルシーケンス外来定期検討会	信州大学
7		会議	・第4回全国がんプロ e-ラーニングクラウド会議	
9 ～10		その他	・北陸緩和医療研修会	富山大学
10 ～11		F D	・FD研修会 「がん診療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会」	金沢医科大学
12		F D	・医療者のための緩和ケア講演会 「答えのないときどうするか？終末期の鎮静を中心に」	信州大学
16		会議	・外部評価委員会	
20		がんサロン	・がんサロンハーモニー 「つらい時の心の置き方」	金沢大学
21		市民公開講座	・県民公開講座 (加賀医療センター) 「最新のがんの診断法や治療法を学ぼう」	金沢大学
24 ～30		F D	・海外FD研修 オーストラリア/メルボルン	石川県立看護大学
26	オンコロジー セミナー	・第2回北信がんプロオンコロジーセミナー 「大腸発がんから進展における 新たな進化機構について」	富山大学	
29	会議	・がん診療連携拠点協議会		

平成 29 年度 1 年目事業実績(インプット・プロセス、アウトプット、アウトカム、アウトカム)

		平成 29 年度 [工程表作成時]	平成 29 年度実績	自己 評価
インプット・プロセス(投入、入力活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織設置(学長連絡協議会、内部評価委員会、総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、広報委員会、企画委員会) ・教務委員会開催(1-2回) ・がんデータベース委員会開催(1回) ・北信がんプロ運営協議会開催(1回) ・広報及び企画委員会開催(1回) ・FD研修の実施(2大学) ・内部評価委員会開催(1回) ・第一期大学院生専攻・社会人コース受講者選考(インテンシブ一部受入れ開始) ・【定員】本科コース/医師15名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師2名、医学物理士2名(計22名) ・インテンシブコース(受入れ) / 医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織設置(学長連絡協議会(9月)、外部評価委員会(3月)、総務委員会(3回開催)、教務委員会(3回開催)、がんデータベース委員会(1回開催)、広報委員会(1回開催)、企画委員会(PM 運営会議)(2回開催)) ・教務委員会開催(3回、9月、12月、2月) ・がんデータベース委員会開催(1回、10月) ・北信がんプロ運営協議会開催(1回、9月) ・広報委員会開催(1回、2月) ・企画委員会(運営会議)(2回、8月、11月) ・外部評価委員会開催(3月) ・第一期大学院生専攻・社会人コース受講者選考(インテンシブ一部受入れ開始) ・【定員】本科コース/医師15名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師2名、医学物理士2名(計22名) ※選考中 ・インテンシブコース(受入れ) / 医師7名、看護師3名、薬剤師2名(計12名)※受入れ継続中 ・海外FD研修の実施(金沢大主催、ワシントンDC)がんゲノム医療の研修として、12名が参加 ・海外FD研修の実施(石川県立看護大主催、メルボルン)先進的緩和ケアの研修として、14名が参加 	A
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、アクションプラン協議 ・特任教員の採用 ・金沢大学及び各連携大学にがんプロ事務局を設置 ・信州大学にテレビ会議システム導入、連携ネットワーク環境の整備 ・30年度教育コースの学生募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・学長連絡協議会、北信がんプロ運営協議会を開催し、事業計画、アクションプランを協議、各委員会にて計画検討実施 ・特任教員の選考、採用決定(連携各大学にて順次採用) ・金沢大学及び連携各大学にがんプロ事務局を設置、担当事務員を順次採用 ・信州大学にテレビ会議システム導入、大学及び病院間のネットワーク環境を整備(クラウド型 CMS) ・30年度全教育コースの学生募集のポスター(80部)、チラシ(2600部)を作成し、連携大学、がん拠点病院に配布 ・インテンシブコースパンフレットを薬剤師会などに周知、配布 ・個別化医療分野での薬剤師選択へのゲノム解析実習を実施 ・高齢化社会での在宅でのがん治療に向けての演習を実施 ・がん治療についての薬剤師としての専門知識を得るための講義を開講 ・緩和ケア連携調整員研修へ参加 	A

		平成29年度 [工程表作成時]	平成29年度実績	自己 評価
アウトプット (結果出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座(1回) ・合同シンポジウム(1回) ・国際シンポジウム(1回) ・合同FD講習会の開催(1回) ・オンコロジーセミナー(2回) ・ライフステージ事例検討会(8回) ・第1期インテンシブコース修了者(修了者見込み、医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座開催(1回、10月、延べ157名参加) ※連携各大学学長、コーディネーター、事務局員が出席 ・国際シンポジウム開催(1回、10月、221名参加) ・合同FD講習会の開催(1回、10月、171名参加) ・オンコロジーセミナー開催(2回、12月及び3月、95名加) ・ライフステージ事例検討会開催(7回、延べ552名参加。6月、7月、8月、10月、11月、12月、3月) ・がんサロンハーモニー(金沢大学)(10回、延べ334名参加、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月) ・国際セミナー(金沢大学)1回、9月、計87名参加 ・第1期インテンシブコース修了者 医師0名(受講中)、看護師3名、薬剤師0名(受講中)現在、3名修了。 ・がんセンターボードの開催(4月～3月各大学) ・連携各大学における市民公開講座の開催(計12回、延べ1,665名参加) ・看護職者及び介護・福祉関係者向けのセミナーを開催(2回、180名参加) ・看護セミナーを開催(1回、143名参加) ・小児血液がんセミナーin 中部を開催(2月北信がんプロ・小児血液がん学会共催、85名参加※TV会議方式) ・連携各大学におけるFD講習会開催(1回、66名参加) ・連携大学におけるFD講演会開催(1回、40名参加) ・OCNS(がん看護専門看護師)対象がん看護事例検討会を実施(1回、36名参加) ・看護実践セミナー開催(2回、延べ81名参加) 	A
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの公開 ・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・e-learning 講義内容の決定、作成 ・各教育コース関連規定等整備 ・連携大学及び関連地域医療機関との連携、情報ネットワーク整備 ・内部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・北信がんプロの新ホームページ公開(9月)受講者向け、医療従事者向け、患者・一般向けコンテンツ作成 ・第一期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月) ・e-learning 講義内容の決定、平成30年3月末までに約7割程度のe-learning 講義を収録予定 ・各教育コース関連規定を改正し、受入れ体制を整備 ・全教育コースを網羅した募集要項を作成、配布 ・インテンシブコース募集要項を作成し、連携大学、がん拠点病院に配布 ・連携大学及び地域医療機関との連携、新TV会議システム導入し、3月末までに6拠点に新たに設置 ・外部評価委員による評価(3月) ・北信がんプロのニュースレターを発行し、公民館や病院に配布(1月、3月) ・各地方新聞などでの北信がんプロに関する記事掲載(計6回、6月、9月、10月、11月、12月、1月) ・金沢ケーブルTVによるがんプロアワー放送(毎週日曜日) ※NPO がんプロ認定機構との合同企画 ・地域包括医療への貢献を連携各病院にて実施。学部学生等が実習参加 ・保健体育、養護教員などに対してがん教育の講義を実施 ・在宅緩和ケア推進会議を開催(2回) ・患者の意向を尊重した意思決定のための研修会実施 ・在宅緩和ケア地域医療連携パスの普及活動を実施 	A

		平成 29 年度 [工程表作成時]	平成 29 年度実績	自己 評価
アウトカム(結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 学部学生、研修医をはじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知 北信データベース情報収集 地域医療で活躍する薬剤師の輩出(1名) 	<ul style="list-style-type: none"> 学部学生、研修医をはじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ポスター掲示、パンフレット、チラシ等配布) 北陸、長野のがん診療拠点病院にアンケート調査を実施、情報収集への協力依頼(20 拠点参加予定) 在宅医療で活躍する薬剤師のスキルアップ及び薬薬連携を行い、地域医療で活躍する薬剤師を輩出(2名) 各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集 	A
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 教育コースの構築 連携大学及び関連地域医療機関等の連携強化 本プランの周知 内部評価を基にした検討、改善 北信がんデータベース情報内容の精査および方向性の決定 情報発信として学会発表や論文発表を行い、得られた成果を共有する 北信地域における在宅療、在宅緩和医療への理解度が高くなる。両立支援、意志決定支援が充足する 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院学内規則や科目等履修生規則を見直し、教育コースの構築し、教育指導体制を確立した 運営協議会や各種セミナーを通して、連携大学及び関連地域医療機関等との連携強化を行った 外部評価を基にした検討、改善を行った 北信がんデータベース情報内容の方向性の決定 情報発信として学会発表や論文発表を行い、得られた成果を共有した 市民公開講座や新聞報道を通し、北信地域における在宅医療、在宅緩和医療への理解度向上、及び両立支援、意思決定につながる活動を行った TV 会議システムの基盤整備により、多様なセミナーが受講可能となり、学部及び病院内での学習、研修機会が増加 教育学部でのがん教育講習を必修化(平成 30 年度より、福井大学) 	A
特記事項	<p>全国がんプロ協議会、全国がんプロe-learningクラウド会議等に、積極的に参加し、他拠点の大学間との情報交換・情報共有に努めるほか、連携大学間では各種委員会や担当教員によるミーティング等を随時行い、連携大学間及び学内での情報共有を行った。また、重要事項については、北信がんプロ学長連絡協議会、運営協議会のほか、運営会議(プログラムマネジメント会議)、テレビ会議による総務委員会などで審議し、加えて外部評価委員会にて当初の事業計画との進捗管理を行った。また、新たに整備したテレビ会議システムを用い、オンコロジーセミナーやライブステージ事例検討会、FD 講演会を開催するなどし、連携大学、連携病院等に最新の知見を紹介するなど、がんゲノム医療、小児・AYA・希少がん、ライブステージの新3科目の関する、情報発信・情報共有を行った。</p>			

平成 29 年度 学長連絡協議会/運営協議会/キックオフミーティング

【日 時】平成 29 年 9 月 18 日（月）12：00～17：00

【場 所】ホテル金沢 4 階エメラルドルーム

【学長連絡協議会/運営協議会 参加者】

氏 名	所 属	部署/役職
山崎 光悦	金沢大学	金沢大学長
矢野 聖二		附属病院がんセンター長・腫瘍内科教授(統括コーディネーター)
大竹 茂樹		基幹教育改革・付属病院担当理事
谷本 梓		がん進展制御研究所 腫瘍内科 助教
高山 浩接		事務部長
中平 泰		学生課長
安田 純子		学生課副課長
安田 衣江		学生課専門職員
石塚 靖志		学生課(事務補佐員)
北井 恵里		学生課(事務補佐員)
神田 享勉	金沢医科大学	金沢医科大学長
元雄 良治		腫瘍内科学教授・集学的がん治療センター長
林 秀樹		課長
石野 道香		事務補佐
石垣 和子	石川県立看護大学	石川県立看護大学長
牧野 智恵		教授
澤本 保子		総務課
上田孝典	福井大学	福井大学副学長（学長眞弓 光文様代理）
片山 寛次		医学部附属病院がん診療推進センター教授
竹内 和生		松岡キャンパス総務室係長
遠藤 俊郎	富山大学	富山大学長
林 龍二		臨床腫瘍部教授
村崎 美紀		課長補佐
濱田 州博	信州大学	信州大学長
小泉 知展		包括的がん治療学教室教授
太田 久喜		副事務長

【学長連絡協議会 開催風景】



第2期北陸がんプロ最終評価

がんプロフェッショナル養成推進委員会
取組経緯及び最終評価結果

大学名	金沢大学、福井大学、福井大学、富山県立大学、石川県立大学 (計15大学)
取組名	北陸圏がんプロチーム養成推進計画
推進責任者	金沢大学 大学院基礎医学部総合研究科長 長 裕
取組の概要	北陸圏の4大学で、連携して1次から4次の養成を推進。1)がん教育推進(本科3コース)に105名を募集し、2次から4次の単位互換や独自のe-learningシステム(14科目30コマ)を活用した教育で、がん医療従事者育成を推進し、計120名の認定医候補者を養成した。2)地域ががん医療の発展を促す。地域がん医療推進委員会を組織し、e-learningプラットフォームに277名を募集し、110名の養成スタッフを育成した。3)がん研究や医療科コースへの参加による学習、大学間-異職種や異国間による国際連携(学術発表27回、英文論文18編)によりがんの研究を推進した。4)卒業生を育成し、最大12施設に所属する19名ががんプロフェッショナル養成推進委員会に130名、6,277名参加し、協力をけん引する推進体制を構築した。

最終評価結果

● 結果評価(A) がん専門医養成の推進が達成された。
 ● 養成推進委員会が主導した。 ①適切な体制、②推進体制を構築した。
 ● ①e-learningプラットフォームを14科目で取り組む。多施設・多職種連携を行っているほか、異職種の参加者等の目標を設定し、臨床研修期間も多職種多施設として活動し、連携関係を構築した取組を実施している。
 ● ②定量的に養成推進委員会を構築しているほか、推進体制において海外交流を促進し、海外など、グローバル化を目指す体制の構築を推進している。
 ● 各大学の事業推進のための多様な取組を実施している。
 ● 各大学が推進委員会に所属するがん専門医候補者の育成を推進し、がん教育の推進を促進する。がん専門医候補者の育成を推進し、がん教育の推進を促進する。
 ● 地域におけるがん医療の発展は、本プログラムの取組と考えるが、各大学の連携・協働による推進体制を構築している。
 ● 養成推進委員会の取組が、がん専門医候補者の育成を推進し、がん教育の推進を促進する。
 ● 養成推進委員会の取組が、がん専門医候補者の育成を推進し、がん教育の推進を促進する。
 ● 養成推進委員会の取組が、がん専門医候補者の育成を推進し、がん教育の推進を促進する。
 ● 養成推進委員会の取組が、がん専門医候補者の育成を推進し、がん教育の推進を促進する。

第3期がんプロの公募

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」

平成29年度予算総額(概)：1.5億円(新規)

【公募の趣旨】がん医療の高度化の一助として、がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。

【公募の条件】1)がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。2)がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。3)がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。

【公募の募集要項】1)募集人数：10名。2)募集職種：がん専門医療人材。3)募集期間：平成29年5月23日(金)まで。4)募集地域：北陸圏。5)募集条件：がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。

【公募の応募方法】1)応募書類の提出：平成29年5月23日(金)まで。2)応募書類の提出：平成29年5月23日(金)まで。3)応募書類の提出：平成29年5月23日(金)まで。

【公募の問い合わせ先】がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」選定結果一覧

申請件数 13件 決定件数 11件

No.	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	東北大学	山形大学、福島県立医科大学、新潟大学	東北次世代がん医療推進プラン
2	国	筑波大学	千葉大学、群馬大学、日本医科大学、埼玉医科大学、埼玉医科大学国際医療センター、群馬県立医療福祉大学、茨城県立医療大学、群馬県立医療福祉大学、東京慈恵会医科大学、上智大学、聖隷医科大学、昭和大学	関東がん専門医療人材養成拠点
3	国	東京大学	横浜国立大学、豊桥大学、自治医科大学、千葉大学、首都大学東京	がん医療化医療を実現する医療人育成
4	国	東京医科歯科大学	神戸大学、慶応義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、東京医科歯科大学、聖マリアンナ医科大学	決定的がん医療プロフェッショナル養成プラン
5	国	金沢大学	福井大学、富山県立大学、富山県立大学、富山県立大学、富山県立大学	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
6	国	京都大学	三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都医科大学	高度がん医療を推進するがん医療人養成
7	国	大阪大学	京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、徳島県立医科大学、大阪医科大学、徳島県立医科大学	ゲノム時代高度がん専門医療人の養成
8	国	岡山大学	徳島大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知大学、徳島大学、徳島大学、徳島大学、徳島大学	人的医療を行う高度がん専門医療人養成
9	国	九州大学	福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
10	公	札幌医科大学	北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学	人と患者をつなぐ北海道がん医療人養成プラン
11	私	近畿大学	大阪府立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫県立大学、大阪府立大学、神戸大学	大学連携推進型がん医療実践者養成プラン

「がんプロフェッショナル養成推進委員会」所見

第3期がんプロ事業全体に対する推進委員会からのコメント

平成29年5月23日

○ このたび、本委員会は「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン』について、本年4月に開催された13件の事業のうち、事業の推進(事業の全体推進、教育プログラム・コースの優秀性)及び事業の実現可能性(事業の推進体制、事業継続、普及の具体性)等について審査を行い、特に優れた11件の取組を選定しました。これらの事業が計画どおり実施されれば、本委員会の趣意に沿った優れた人材が多量に輩出され、我が国におけるがん医療の発展につながるものと期待します。

○ 選定された各大学には、以下の点にも配慮した上で、事業計画が着実に実施されることを要します。

- 1) 本事業は各大学の連携の下で実施するものであることに加え、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針、考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。
- 2) 優れた事業の連携の下、自己評価・評価や患者等を対象とした外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行い、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを構築すること。その際、研修する学生や医療従事者のキャリアパス形成に資するものとする。また、画期的なe-learningプラットフォームの構築による推進体制の構築すること。
- 3) 成果や効果は短期間で可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく発信発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等を積極的に積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。

○ 今回、残念ながら選定されなかった2件も優れた事業や特色ある事業と考えられました。選定されなかった各大学においては、本委員会から、申請いただいた事業に対する所見をお伝えしますので参考にさせていただくとともに、今後も地域・社会からの多様なニーズに応える特色ある人材養成に取り組んでいただくことを強く期待しています。

第3期がんプロ(申請時)

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北陸がんプロ：金沢大、福井大、富山大、福井大、富山県立大学、石川県立大学

【これまでの取組】
 2期の実績
 1) 本科3コース105名の養成
 2) 認定医候補者139名の輩出
 3) がんプロe-learningプラットフォーム構築(109機、194km、6,337h)による多施設・多職種連携の推進

【コース概要】
 1) 各大学の強みを生かした相互補完的教育コース + 多施設・多職種連携の連携(本科10コース、e-learningプラットフォーム)
 2) 先進的e-learningプラットフォーム活用
 3) 連携カンファレンス(学際・異職種・異国間)活用
 4) 小児・AYA世代ががん長期フォローアップ
 5) 少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
 6) 先進的在宅緩和ケア
 7) 患者のライフステージに合わせた全人的ケア

【事業の推進体制】
 1) がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。
 2) がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。
 3) がん専門医療人材の育成を推進し、がん医療の発展を促進する。

【数値目標】
 1) 募集人数(本科15、e-learningプラットフォーム)24名
 2) 認定医候補者139名(100名、4,500h)
 3) e-learningプラットフォーム構築(109機、194km、6,337h)
 4) 連携カンファレンス(学際・異職種・異国間)活用
 5) 小児・AYA世代ががん長期フォローアップ
 6) 先進的在宅緩和ケア
 7) 患者のライフステージに合わせた全人的ケア

北信がんプロの実施事業

金沢大・がん進展制御研究所
国立がん研究センター

① 講義
 全国e-learningクラウド
 教員が教材作成
 学生が受講(単位互換)

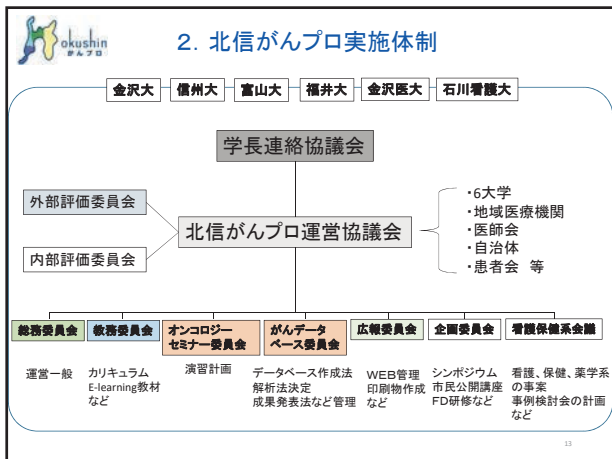
② 演習
 北信オンコロジーセミナー
 ライフステージ事例検討会
 (TV会議システムを使用)

③ 地域がん医療の特徴把握
 地域がんデータベース
 (院内がん登録データを活用)

④ スタッフ研修(FD)
 海外FD研修
 海外連携施設

⑤ 人材交流
 国際シンポジウム 合同シンポジウム
 他のがんプロ拠点
 他人材育成プログラム
 「第三の道」「認プロ」
 「スーパードクター」等

⑥ 市民啓発・教育
 市民公開講座
 患者会
 北信4県の自治体
 北信4県の医師会
 北信4県のがん拠点病院等



北信がんプロ運営協議会

目的 : 北信がんプロ事業に関する協議と承認

構成 : 連携大学、がん診療連携拠点病院、医師会、自治体、患者会等の代表者

開催予定 : 年1回(来年から6月ごろ開催)

開催方法 : 来年からTV会議で

特にご協力・ご意見をいただきたい点 :

- がん拠点病院: インテンシブコース受講、がんデータベース協力
- 医師会: インテンシブコース受講、市民への啓蒙・教育
- 自治体: がんデータベース事業への支援、がん対策立案

各種委員会 委員リスト

大学名	総務委員会	教務委員会	広報委員会	がんデータベース委員会	オンコロジーセミナー委員会	企画委員会	看護保健系会議
金沢大学	矢野聖二	清上敬	大島正伸	中田光俊	矢野聖二	横谷清剛	稲垣美智子
	中田光俊	鈴木健之	吉崎智一	土屋弘行	中田光俊	谷本祥	塚崎恵子
		田嶋敦		谷本祥			武村晋浩
		松下良					松下良
	武村晋浩					崔吉道	
信州大学	田中榮司	田中榮司	塩沢丹里	小泉知展	小泉知展	伊藤研一	内田隼
	小泉知展	中沢洋三		野見山晋生	中沢洋三		
		小泉知展		中沢洋三	塩沢丹里		
				塩沢丹里	伊藤研一		
富山大学	(主)林 龍二 (副)新田淳美	(主)光村 寛 (副)藤 秀人	(主)新田淳美 (副)長田拓哉	(主)林 龍二 (副)関根達和	(主)藤井 努 (副)渡邊新也	(主)北村 寛 (副)櫻井愛明	(主)安田智美 (副)八塚美穂
	片山寛次	小林基弘	片山寛次	西田好雄	片山寛次	谷澤昭彦	上野栄一
福井大学	谷澤昭彦	磯見智恵	上野栄一	黒川智司	谷澤昭彦	山下秀勲	紫田里美
	磯見智恵	片山寛次					
金沢医科大学	元雄良治	下平滋隆	原川 太	西野善一	安本和生	山田社亮	
	下平滋隆	川端 浩	新井田 要	浦本秀隆	本雨伸一	川崎康弘	
石川県立看護大学	石垣和子	牧野智恵	今井美和		今井美和	牧野智恵	牧野智恵
	牧野智恵	岩城直子	林 静子		磯光江	山崎智可	金谷雅代

会議はTV会議システムで開催

北信がんプロ29年度予算概要

(単位:千円)

	共通	金沢大	信州大	富山大	福井大	金沢医科大	石川看護大	合計
直接経費	49,100	18,390	13,000	9,500	10,200	8,700	7,700	116,590
間接経費	6,000	5,510	3,800	—	—	—	—	15,310
事業額	55,100	23,900	16,800	9,500	10,200	8,700	7,700	131,900

3. 北信がんプロ事業計画

(1)北信がんプロの教育コース

本科生コース 平成30年4月受入れ開始

教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	先端の個別化医療コース	医師・歯科医師	0	5	5	5	20
	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	薬剤師	0	1	2	2	7
	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人育成コース	医学物理士	0	2	2	2	8
信州大	ゲノム医療に精通したがん治療育成コース	医師	0	2	2	2	8
	がん診療に詳しい、認定遺伝カウンセラー養成コース	多職種	0	1	1	1	4
富山大	個別化医療を支えることができる高度薬剤師養成コース	薬剤師	0	4	4	4	16
	個別化医療で支えることのできる高度薬剤師養成コース	薬剤師	0	1	1	1	4
福井大	地域がん専門医養成コース	医師	0	2	2	2	8
金沢医科大	がんAI/ロボット/ナノ粒子がん治療リーダー養成コース	医師	0	2	2	2	8
石川看護大	がんライフステージコース	看護師	0	2	2	2	8
合計		0	22	23	23	23	91

インテンシブコース 平成29年10月受入れ開始 (一部平成30年4月開始)

教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	がんゲノム医療生体教育コース	医師・歯科医師	2	6	6	6	26
	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	薬剤師	0	2	2	2	8
富山大	高齢がん患者ケア専門コース	医師	2	2	2	2	10
	個別化医療で支える専門的薬剤師養成コース	薬剤師	1	2	2	2	9
	在宅がん緩和ケアリハビリテーションコース	看護師	0	1	2	2	7
福井大	在宅医療管理コース	医師等	0	12	22	22	78
	在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	96
金沢医科大	がん集学的治療医養成コース	医師	1	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケアコース	多職種	3	7	7	7	31
合計		8	55	67	67	67	264

教育コースの受講と修了方法

受講方法: 大学に履修届を提出(詳細は、各大学学務係にお問い合わせください)

修了要件: 大学およびコースにより異なります

・金沢大学の医師・歯科医師対象の本科生コースの場合

がんプロで用意したe-learningの受講および演習で10単位以上取得
大学院が定めた単位を30単位以上取得(がんプロの単位を含む)
+
論文審査に合格

それぞれの教室の大学院生として、がんプロコースを修了したと認定

・金沢大学の医師・歯科医師対象のインテンシブコースの場合

がんプロで用意したe-learningの受講(2単位分)および演習受講

がんプロインテンシブコースを修了したと認定(事務局より認定証発行)
(無料)

講義としてのe-learning教材: 筑波大学が取りまとめをしています

e-learningクラウドによる教材の受講資格

全国e-learningクラウドへ登録

1. 正規のがんプロ学生

大学院でのe-learning単位化手続きが済んでいる大学で(=大学院便覧掲載)、がんプロ学生として大学院教務に届け出をした学生

2. e-learning単位取得学生

大学院でのe-learning単位化手続きが済んでいる大学で、がんプロコース生ではないが、がんプロe-learningクラウドで単位取得を目指す学生

3. 大学院生、単位関係なく参考視聴

大学院でのe-learning単位化手続きが済んでいない大学で、がんプロe-learningクラウドの視聴を希望する大学院生

4. インテンシブコース

クラウド教材コンテンツによるインテンシブコース提供予定

北陸がんプロコンテンツの全国e-クラウドへの登録状況

北陸がんプロ教材16科目中11科目(78コマ)を公開

カテゴリ	北陸がんプロコース名	筑波カテゴリ	筑波タイトル
全職種共通	がん緩和医療学	緩和医療学	鎮痛剤および鎮痛補助剤ほか
全職種共通	腫瘍薬物学特論	腫瘍内科学・薬学	腫瘍内科学概論 ほか
全職種共通	腫瘍放射線医学特論	臨床腫瘍学概論ほか	放射線腫瘍学 放射線生物学ほか
全職種共通	分子腫瘍学特論	基礎腫瘍学	腫瘍生物学1 ほか
全職種共通	臨床栄養学特論	栄養学	栄養学項目1 ほか
医師共通	がん外科学特論	腫瘍外科	消化器がん ほか
医師共通	腫瘍病理学特論	基礎腫瘍学・病理診断学	がん検査医学 ほか
医師共通	臨床腫瘍学特論	臨床腫瘍学概論	代表的疾患の標準的治療4 造血器腫瘍 ほか
医師共通	臨床統計学特論	臨床研究と生物統計学	医療統計学1 ほか
メディカルスタッフ	医学物理学特論	医学物理/放射線物理学ほか	原子と原子核の構造 ほか
メディカルスタッフ	コンサルテーション論	緩和医療学 ほか	家族・遺族のケア ほか
2017年11月 までに 新規作成予定	がんゲノム医療	がんゲノム医療	未定
	小児・AYAがん	小児・AYAがん	未定
	希少がん	希少がん	未定
	ライフステージがん	ライフステージがん	未定

(2)北信オンコロジーセミナー(演習)

- 目的: 最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がん、希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習する演習
- 対象: 北信がんプロ受講生および北信地域の医療機関の多職種
- 開催方法: がんプロTV会議システム
- 開催頻度: 3か月に1回(5年間で18回)



がん診療連携拠点病院等との 診療連携ネットワーク

大学 6拠点
がん診療連携拠点病院等 21拠点
(平成29年8月現在)

- 第1回北信オンコロジーセミナー(主催:金沢大学)
日時:平成29年12月8日(金)18時から
場所:各施設のTV会議室
症例検討2例(18時~19時)
特別講演(19時~20時)
間野博行先生(東大教授・国立がん研究センター研究所長)
- TV会議システム導入の
がん診療拠点病院は
お知らせください

(3)ライフステージ事例検討会(演習)

- 石川県立看護大が中心となり、7月4日から開催
- 参加対象: 医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーなど
- (開催予定)
- 29年度 8回
- 30年度・31年度 各 12回
- 32年度・33年度 各 6回
- 計 44回



(4) 地域がんデータベース

目的: 北信地域のがん患者、がん医療の特徴を明らかにし、将来のがん対策立案に活用する

毎年大学院生に学会発表させる
4年目に英語論文にまとめ投稿する

大学院生と教員のモチベーションを保つ
事業の求心力を保つ

北信地域でのがん対策立案に活用

28のがん拠点病院
院内がん登録データ
がん種別罹患数、年齢分布、生存情報、発見ステージ、初回治療の種類

6種類のレセプト情報
種がいの者
免疫チェックポイント阻害薬(3剤)使用
甲状腺がん分子標的薬(2剤)使用

解析対象(案) 7種類の成果が数値目標!

障がい者がん: 罹患数、年齢、発見ステージ、治療、生存情報
高齢者がん(80歳、85歳、90歳): 罹患数、年齢、発見ステージ、治療、生存情報
小児・AYAがん: 罹患数、年齢、がん種、発見ステージ、治療、生存情報
希少がん(肉腫・原発不明): 罹患数、年齢、発見ステージ、治療、生存情報
甲状腺がん分子標的薬使用症例: 上記+投与期間→実臨床での有効性
免疫チェックポイント阻害薬使用症例: 上記+投与期間→高齢者での有効性(メラノーマ、肺がん、腎がん、頭頸部がん、胃がんなど)
小児がん長期フォローアップ症例: 成長障害、社会活動、二次発がん
妊孕性保存症例: 罹患数、年齢、発見ステージ、治療、生存情報
外来化学療法実施症例、緩和ケア実施症例、在宅緩和ケア実施症例、グリオーマ症例?

ご興味のあるがん種等あれば、成果発表側として是非ご参加ください!!

障がい者のがん症例(2015年金沢大学附属病院)

治療行為・組み合わせ

部位	合計	手術的治療のみ	内科的治療のみ	放射線治療のみ	手術+内科的治療	手術+放射線治療	手術+免疫療法	その他
合計	20	6	1	3	1	3	2	4
頭頸部	4				1			3
脳・髄膜	4	2						2
悪性リンパ腫	2			1	1			
腎・腎盂	2	2						
白血病・造血器疾患	2			2				
子宮体部	1	1						
卵巣・卵管	2	1				1		
結腸	1		1					
膵臓	1					1	2	
肝臓・肝内胆管	1							1

ステージ 合計
0期 6
I期 1
II期 1
III期 3
IV期 5
不明 9

読み取れること
障がい者にも様々な臓器にがんが発生
当院紹介例では全例何らかの治療を実施
北信全体での症例数は? 治療実施割合は? 障がいの種類は?

行政が考えるべき対策
障がい者でも全身の検診を!

院内がん登録の診断日以前に「障がい者」医療費受給者証の認定を受けている人を対象

小児・AYA世代のがん症例(2015年金沢大学附属病院)

部位	性別	小児(25例)					AYA(161例)					合計
		0~5歳	6~10歳	11~15歳	16~20歳	21~25歳	26~30歳	31~35歳	36~40歳			
全部位	男	3	4	3	8	2	8	8	19	55		
	女	4	5	6	6	11	13	37	49	131		
	計	7	9	9	14	13	21	45	68	186		

部位	合計(比率)	がん検診時	他疾患経過観察	その他不明
1 頭頸部	186	2	33	45
2 食道	2	1.1%		
3 胃	4	2.2%	3	1
4 膵臓	4	2.2%		2
5 胆膵・肝門管	0	0.0%		
6 肝臓・肝内胆管	1	0.5%	1	
7 胆のう・肝外胆管	1	0.5%		
8 膵臓	1	0.5%		
9 気管・肺・気管支	3	1.6%		3
10 骨・軟部組織	8	4.3%	1	7
11 白血病及び造血器疾患	22	11.8%	1	6
12 皮膚	2	1.1%	1	1
13 乳腺	15	8.1%	2	13
14 子宮頸部	43	23.1%	19	15
15 子宮体部	3	1.6%		2
16 卵巣・卵管	5	2.7%		4
17 嚕立腺	0	0.0%		
18 腎・腎盂	1	0.5%		1
19 膀胱	0	0.0%		
20 膵・膵臓	28	15.1%		6
21 甲状腺	19	10.2%	6	5
22 悪性リンパ腫	8	4.3%	1	3
23 その他の部位	17	9.1%	1	3

読み取れること
年代順にがんが多い!
AYA世代には子宮頸がんが多い!
おそらく妊娠時の検診で発見されている!

行政が考えるべき対策
妊娠時の検診は必ず・精度高く!
精度管理に注力!

(5) 合同市民公開講座

目的: 市民への啓蒙 がん教育

金沢大学医学展と同時開催

検診受診
↓
早期発見
↓
早期治療
↓
早期社会復帰
の流れを作る

- 学生が司会
- 学生が第2部講演3で発表
- がんプロコナーで主要ながんの説明(乳がんの触診模型)

・年1回ずつ
・場所は毎年持ちまわり
・毎回全大関係者が1名は出席
・順番は石川→長野→??

10月29日(日) 14:00~16:15
入場無料 定員500名

講演1:「がん検診ってなんだ?」
講演2:「免疫チェックポイント阻害薬ってどんな薬?」
講演3:「必ず受けよう! がん検診!」

(6) 合同シンポジウム

目的: 大学院生、スタッフの情報交換・人材交流

対象: 大学院生、教育・指導スタッフ

方法: 他の教育プログラムとの合同開催
未来医療研究人材拠点形成事業「第三の道」
認知症プロフェッショナル(認プロ)
スーパードクター
他のがんプロ拠点

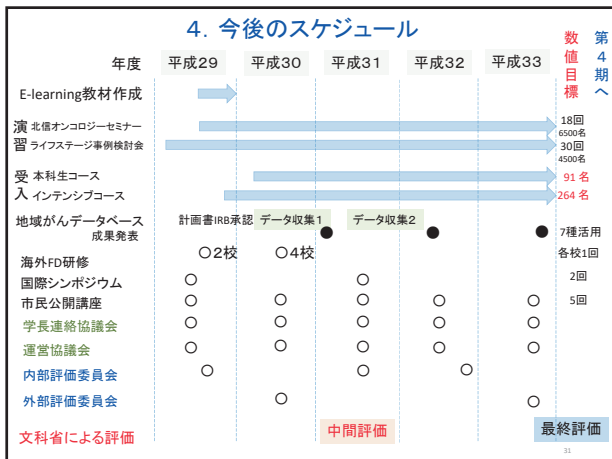
(7) 国際シンポジウム

目的: 大学院生、スタッフの情報交換・人材交流・国際化

対象: 大学院生、教育・指導スタッフ

方法: 他のプロジェクトとの合同開催
金沢大学がん進展制御研究所 国際シンポジウム

今年度は、
H29年10月25日 がん研50周年記念国際シンポジウムと共催



- ### 今後のイベント
- 10月9日(月) 市民公開講座(ホテル金沢・エメラルドルーム)
※金沢医科大学主催
 - 10月11日(水) FD講演会(TV会議方式)※金沢医科大学主催
東京大学医学研究所ゲノム医科学分野 柴田 龍弘 教授
「ゲノムシーケンスによって発がん過程を解き明かす」
 - 10月25日(水) 国際シンポジウム(がん研共催): 金沢東急ホテル
 - 10月26日(木) メディカルイノベーション講義
(未来医療研究人材拠点形成事業「第三の道」主催)
 - 10月29日(日) 合同市民公開講座(十全講堂)
 - 12月 8日(金) 第一回オンコロジーセミナー開催
 - 12月13日(水) FD講演会(TV会議方式)※金沢医科大学主催
京都大学医学部付属病院 脳神経外科 荒川 芳輝 特定講師
- 教育コース等について
- 29年10月より一部インテンシブコース開講
 - 30年4月より大学院生コース受入開始

29年度～30年度前半の各大学の主な取組み

大学名	概要
金沢大学	1) 第1回北信がんプロ合同市民公開講座(金沢市・十全講堂:10月29日(日)) 2) 第1回北信オンコロジーセミナー(特別講演:開野博行先生:12月8日(金)) 3) 海外FD研修、日程、訪問先検討中
信州大学	1) 附属病院でのクリニカルシーケンスの開始(9月より) 2) 大学院生および修士生のリクルート 3) 長野県がん拠点病院連絡協議会主催の市民公開講座(11月12日:信大附属病院にて) 4) 来年度の市民公開講座(奥野市)の開催準備 その他、北信がんプロ主催のセミナーに参加
富山大学	1) 医療従事者対象セミナー 北陸緩和医療研究会(9月1日)、CST研修会(9月30日～10月1日)、エンドオブライフ・ケア研修in富山(12月16日～17日)、緩和ケアフォローアップ研修会(1月27日)、北陸緩和医療研究会(3月9日～10日) 2) 公開市民シンポジウム(2月18日)
福井大学	1) 市民公開シンポジウム(12月17日)(福井駅前 複合施設アオッサ) がんゲノム診療について、小児・AYA世代がんについて 2) 北信がんプロ看護セミナー(12月24日)
金沢医科大学	1) 北信がんプロ金沢医科大学市民公開講座 「がんゲノム医療を知ろう～最速の治療を受けるために～」(10月9日) 今後の予定:12月16日 2) 北信がんプロFD講演会 「腫瘍病理セミナーゲノムシーケンスによって発がん過程を解き明かす～」(10月11日) 今後の予定:11月21日、11月30日、12月13日、1月26日
県立看護大学	1) がんライフケアステージ事例検討会(7月4日、8月1日、10月3日、11月7日、12月5日) 2) 公開講座「ブリーチケアの理解とチームに求められること」(7月2日) 3) 公開FD研修「臨床で行うリンパ腫瘍のケア」(9月9日) 今後の予定:2月24日 4) FD研修「CNS関係症によるがん看護事例検討会」(8月12日、10月22日) 5) 海外FD研修(開催日検討中)

今後とも、ご支援、ご協力を
宜しくお願い致します。



北信がんプロ

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

北信がんプロ キックオフミーティング

文部科学省 平成 29 年度大学教育再生加速費 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン

ごあいさつ

金沢大学
山崎光悦 学長

文部科学省の「がんプロフェッショナル」養成プランにおいて、これまでの第一期・第二期では、金沢大学を中心とした金沢大学、福井大学と金沢医科大学、石川県立看護大学が中心となる「北信がんプロ」が中心として活動してきました。今年度からの第三期

今年度スタートの、文部科学省の「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」に採択された、金沢大学など北信3県と長野県の6大学による「北信がんプロ」のキックオフミーティングは9月18日、金沢市のホテル金沢で開催されました。参加大学の担当教授が、各大学の教育コースの内容や、取り組みの目標を紹介しました。

本年度スタートの、文部科学省の「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」に採択された、金沢大学など北信3県と長野県の6大学による「北信がんプロ」のキックオフミーティングは9月18日、金沢市のホテル金沢で開催されました。参加大学の担当教授が、各大学の教育コースの内容や、取り組みの目標を紹介しました。

連携大学の実績を相互補完する課程

文科省が推進する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」は、超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成を目的として、2017年度から2020年度まで、5年間の期間で実施される。この期間中に、各大学がそれぞれ異なる専門分野での教育コースを開発し、連携して実施する。これにより、地域に合った人材を養成し、医療の質を向上させることが期待されている。

ゲム医療体制を構築

がん医療の高度化と地域医療の充実を図るため、ゲム医療体制の構築が重要視されている。これは、がんの予防、早期発見、治療、緩和ケアを一貫して提供する体制を指す。北信がんプロでは、各大学の専門性を活かして、地域に根付いたゲム医療体制の構築に取り組んでいる。

高齢者対策にスポット

高齢化が進む地域では、がんの発生率も増加している。高齢者に対するがん医療の充実が求められている。北信がんプロでは、高齢者の生活習慣や健康状態を考慮した教育コースを開発し、高齢者に対する適切な医療を提供できるように取り組んでいる。

研究成果を地域に還元

がん研究の成果を地域に還元し、医療の質を向上させることが重要である。北信がんプロでは、各大学の研究成果を積極的に地域に還元し、医療従事者や患者への教育・啓発活動に取り組んでいる。

薬剤師のリーダー育成

がん治療において、薬剤師の役割はますます重要になっている。薬剤師のリーダーを育成し、がん治療の質を向上させることが求められている。北信がんプロでは、薬剤師のリーダー育成のための教育コースを開発し、地域に貢献している。

先端技術扱える人材を

がん医療の最先端技術を開発・応用するためには、先端技術扱える人材の育成が不可欠である。北信がんプロでは、先端技術扱える人材を育成するための教育コースを開発し、地域に貢献している。

【運営協議会 開催風景】



【運営協議会 参加者】

氏名	所属	部署/役職
蒲田 敏文	金沢大学	附属病院長
堀 修		医薬保健学総合研究科長
松下 良		薬学類長
溝上 敦		泌尿器集学的治療学 教授
絹谷 清剛		核医学診療科長
大島 正伸		腫瘍遺伝学 教授
多久和 陽		医学類長・血管分子生理学 教授
萱原 正都	国立病院機構金沢医療センター	統括診療部長
辻 国広	石川県立中央病院	消化器内科部長(土山 寿志先生代理)
安本 和生	金沢医科大学	腫瘍内科学特任教授
下平 滋隆		再生医療学教授
西野 昭夫	小松市民病院	副院長(泌尿器科)
龍澤 泰彦	石川県済生会金沢病院	外科診療部長
上田 博	石川県医師会	副会長
菊地 修一	石川県健康福祉部	健康福祉部次長
相川 広一		健康福祉部健康推進課長
岩城 直子	石川県立看護大学	准教授
高見 俊也	北國新聞社	論説委員長
和田 真由美	「萌の会」	代表
渡辺 和良	地域医療機能推進機構金沢病院	呼吸器内科部長
中野 達夫	浅ノ川総合病院	副病院長
卜部 健	公立松任石川中央病院	病院長
上木 修	公立能登総合病院	院長
牛島 聡		副院長
鎌田 徹	恵寿総合病院	副院長
三浦 基嗣		医事課長
谷澤 昭彦	福井大学	がん専門医育成推進講座教授
磯見 智恵		看護学科成人・老年看護学教授
吉川 淳	福井県立病院	副院長
河合 泰一		血液腫瘍内科主任医長
戸川 保	国立病院機構 敦賀医療センター	診療部長
宮下 裕文	福井県健康福祉部	健康増進課長
新田 淳美	富山大学	医学薬学研究部(薬学) 薬物治療学教授
清水 康一	富山県立中央病院	院長
高仲 強	厚生連高岡病院	総合のがん診療センター長
西嶋 博司	市立砺波総合病院	がん診療部長
桐山 正人	黒部市民病院	副院長
角谷 直孝	富山労災病院	副院長
石浦 嘉之		泌尿器科部長
佐々木 正寿	富山赤十字病院	副院長
吉田 徹	富山県済生会高岡病院	外科部長
伊藤 彰彦	富山県厚生部	厚生部健康課がん対策推進班長(厚生部長 前田 彰久様代理)
亀田 翔太		厚生部健康課がん対策推進班主任(厚生部参事・健康課長 助野 吉昭様代理)
田中 榮司	信州大学	医学系研究科長
伊藤 研一		外科学第二教室教授
本田 孝行	信州大学医学部附属病院	病院長
大和 眞史	諏訪赤十字病院	病院長
信士 明宏	諏訪赤十字病院	腫瘍内科部長
田内 克典	相澤病院	病院長
吉岡 二郎	長野赤十字病院	病院長

TV会議システム導入拠点

◆大学 6 拠点

◆がん診療連携拠点病院等 27 拠点

	大学(6 拠点)	がん診療連携 拠点病院 地域がん診療 推進・協力病院等 (21 拠点)	29 年度新設 (6 拠点)
石川県	金沢大学 金沢医科大学 石川県立看護大学	小松市民病院 金沢赤十字病院 公立能登総合病院 恵寿総合病院 金沢市立病院 金沢医療センター 石川県済生会金沢病院 芳珠記念病院	石川県立中央病院 公立松任石川中央病院 浅野川総合病院
長野県	信州大学		諏訪赤十字病院 飯田市立病院 長野赤十字病院
富山県	富山大学	富山県立中央病院 富山市民病院 高岡市民病院 富山労災病院 富山赤十字病院 厚生連高岡病院 市立砺波総合病院 黒部市民病院 富山県済生会高岡病院 富山県済生会富山病院 金沢医科大学 氷見市民病院	
福井県	福井大学	福井県済生会病院 国立病院機構敦賀医療センター	

新しいTV会議システムでは、クラウド型の多拠点接続装置（AVER/VC520（広角可動カメラ・マイクのセット）＋ノート PC）の使用により、従来の三分の一のコストで運用が可能になり、同時接続数も従来の12拠点から現在20拠点（最大40拠点）に増えました。

以前と違い、PCなどネットのつながる環境があれば、出張先などでも会議に参加することが可能です。

北信がんプロTV会議システムの更新・拡充（端末）

(テレビ会議システム)

各大学・病院のTV会議システム端末
(Lifsize Express200) ~H25年度設置

本年度 センター設備の更新予定があること、文科省より、TV会議システムの購入は控えるようにとの指示もあり、故障施設へのTV会議システムの追加購入は困難。簡易TV会議システムと既存50インチディスプレイを使うことでTV会議が可能となる予定

(Panasonic KX-VC1300J) 28年度、29年度設置

KX-VC1300J オープン価格

パソコンとディスプレイを接続
多人数での参加も可能

Aver (アヴァー) 簡易テレビ会議システム VC520 (広角可動カメラ・マイクのセット)
ノートPCをテレビ会議システムとして使用

(6大学) →

故障発生施設・新規参加施設

新しいTV会議システム（センター設備入替）

(センター設備)

金沢大学メディア基盤センター内
がんプロ会議専用機器

MCU・録画装置が保守が切れており
故障時対応が困難

本年度は、MCU（多拠点装置の更新予定している。

当初は従来と同じ設置型を検討していたが、長い目で見るとクラウド型の多拠点接続装置が安価で運用可能

クラウド型コラボレーションサービス

- 社内でも使用するコミュニケーションツールをすべて提供
→ ビデオ会議、チャット、資料共有
→ 予約、録画、録画配信機能は、オプションサービスとして提供予定(*)
- 閉域やインターネット経由の接続を提供 (他社とのコミュニケーションに活用)

企業内のコミュニケーション

シームレスコラボレーション

コラボレーションゲートウェイ

企業内から他社との共創への広がり

社内ネットワーク (閉域) インターネット

自社 他社

ビデオ会議端末 (H.323) Polycom, Sony ビデオ会議端末 Cisco MX/SX /DX/EXシリーズ ブラウザ 専用アプリ SFB (PC/スマホ) (PC/スマホ) ブラウザ 専用アプリ (PC/スマホ) (PC/スマホ)

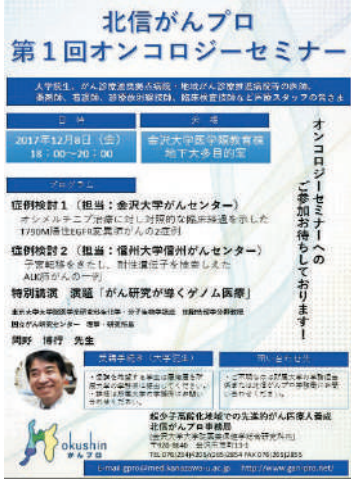
Skype連携 Office365



平成 30 年 2 月 27 日 (火) 「小児・血液がんセミナー in 中部」
北信がんプロと(一般社団法人)日本小児血液・がん学会との合同でTV会議システムを通してセミナーを開催しました。

オンコロジーセミナー

No.	内 容
<p>第1回</p>	<p>日 時：平成 29 年 12 月 8 (金) 18:00~20:00</p> <p>場 所：金沢大学 (医学類教育棟地下大多目的室) 各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>症例検討 1: オンメルチニブ治療に対し対照的な臨床経過を示した T790M 陽性 EGFR 変異肺がんの 2 症例 (金沢大学がんセンター)</p> <p>症例検討 2: 子宮転移をきたし、耐性遺伝子を検索しえた ALK 肺がんの 1 例 (信州大学信州がんセンター)</p> <p>特別講演: 「がん研究が導くゲノム医療」</p> <p>講 師： 間野 博行 (東京大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野教授, 国立がん研究センター 理事・研究所長)</p> <p>参 加 者：90 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第2回</p>	<p>日 時：平成 30 年 3 月 26 日 (月) 18:00~20:00</p> <p>場 所：各大学、各医療施設等がんプロ会議室</p> <p>症例検討 1: 頸部食道癌に対する CRT 後再発に対し、下咽頭喉頭切除食道全摘を施行した 1 例 (富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科)</p> <p>症例検討 2: 免疫チェックポイント阻害薬にて IP を伴う急性増悪を来した低心機能胃癌多発肺転移の 1 例 (金沢医科大学病院 腫瘍内科)</p> <p>特別講演: 「大腸発がんから進展における新たな進化機構について」</p> <p>講 師： 三森 功士 (九州大学病院別府病院 外科 教授 診療科長)</p> <p>参 加 者：名</p>



北信がんプロ 第1回オンコロジーセミナー

日時：2017年12月8日(金) 18:00~20:00
会場：金沢大学医学部教育棟 地下大多目的室


プログラム

症例検討 1 (担当: 金沢大学がんセンター)
オンメルチニブ治療に対し対照的な臨床経過を示した T790M 陽性 EGFR 変異肺がんの 2 症例

症例検討 2 (担当: 信州大学信州がんセンター)
子宮転移をきたし、耐性遺伝子を検索しえた ALK 肺がんの 1 例

特別講演 演題「がん研究が導くゲノム医療」
東京大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野教授、国立がん研究センター 理事・研究所長
間野 博行 先生

受講手続き(大学関係) 問い合わせ先
信州大学がんセンター がん診療連携拠点病院 がん診療連携推進センター
〒900-8585 金沢市東三丁目
TEL: 076-824-2121 FAX: 076-824-2125
Email: gpro@mail.kanazawa-u.ac.jp http://www.gpn.cps.net/



北信がんプロ 第2回オンコロジーセミナー

日時：2018年3月26日(月) 18:00~20:00
会場：各大学・各医療施設等がんプロ会議室

プログラム

症例検討 1 (担当: 富山大学附属病院 消化器・腫瘍・総合外科)
頸部食道癌に対する CRT 後再発に対し、下咽頭喉頭切除食道全摘を施行した 1 例

症例検討 2 (担当: 金沢医科大学病院 腫瘍内科)
免疫チェックポイント阻害薬にて IP を伴う急性増悪を来した低心機能胃癌多発肺転移の 1 例

特別講演 演題「大腸発がんから進展における新たな進化機構について」
九州大学病院別府病院 外科 教授 診療科長
三森 功士 先生

受講手続き(大学関係) 問い合わせ先
信州大学がんセンター がん診療連携拠点病院 がん診療連携推進センター
〒900-8585 金沢市東三丁目
TEL: 076-824-2121 FAX: 076-824-2125
Email: gpro@mail.kanazawa-u.ac.jp http://www.gpn.cps.net/

ライフステージ事例検討

No.	内 容
第1回	<p>日 時：平成29年6月6日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：富山大学附属病院</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「認知機能が低下している 患者の治療選択について考える」</p> <p>発 表 者：竹本 朋代（がん化学療法認定看護師）</p> <p>ミニレクチャーテーマ：「患者とその家族を抗がん剤曝露から守ろう」</p> <p>講 師：牧野 智恵（石川県立看護大学 教授） 藪下 佳子（金沢医科大学病院 看護師）</p> <p>参 加 者：65名</p>
第2回	<p>日 時：平成29年7月4日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：市立砺波総合病院</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「在宅酸素療法を受け入れ困難 であった症例との関わりを振り返る ～その人らしさを大切に～」</p> <p>発 表 者：寿盛 志津子（看護師）</p> <p>ミニレクチャーテーマ：「より良いチーム医療のために」</p> <p>講 師：平 優子（がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：96名</p>
第3回	<p>日 時：平成29年8月1日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：福井大学附属病院</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「終末期がん患者の退院支援」</p> <p>発 表 者：坪川 光（看護師）</p> <p>ミニレクチャーテーマ：「在宅療養を支える家族の不安 ～症状変化に対する家族の思い～」</p> <p>講 師：久保 博子（がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：56名</p>
第4回	<p>日 時：平成29年10月3日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：福井県済生会病院</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「疼痛緩和困難な患者への対応 ～アセスメントとマネジメントの視点から～」</p> <p>発 表 者：松本 友梨子（がん看護専門看護師）</p> <p>ミニレクチャーテーマ：「がん患者の痛みのマネジメント ～患者の苦しみに近づく一歩～」</p> <p>講 師：松本 友梨子（がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：92名</p>

No.	内 容	
第5回	<p>日 時：平成29年11月7日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：金沢医療センター</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「悪い知らせを伝えられないまま 終末期を迎えた患者と家族への関わり」</p> <p>発 表 者：小西 美帆</p> <p>ミニクチャーテーマ：「がん告知の現状と看護の役割」</p> <p>講 師：原子 裕子（がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：66名</p>	
第6回	<p>日 時：平成29年12月5日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：金沢医科大学病院</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「病状説明後、 せん妄が出現した患者への関わり」</p> <p>発 表 者：相上 恵子</p> <p>ミニクチャーテーマ：「せん妄のケア」</p> <p>講 師：上埜 千春（がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：64名</p>	
第7回	<p>日 時：平成30年2月6日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：KKR北陸大学</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事 例 検 討</p> <p>発 表 者</p> <p>ミニ 講 師</p> <p>参 加 者</p>	
第8回	<p>日 時：平成30年3月6日（火）17：45～</p> <p>担 当 施 設：KKR北陸大学</p> <p>会 場：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>事例検討テーマ：「がん終末期にBad Newsを 拒否した患者と家族のケア」</p> <p>発 表 者：鳥越 安子</p> <p>ミニクチャーテーマ：「希望を持ちながら心の準備をする緩和ケア」</p> <p>講 師：山瀬 勝巳（がん看護専門看護師）</p> <p>参 加 者：113名</p>	

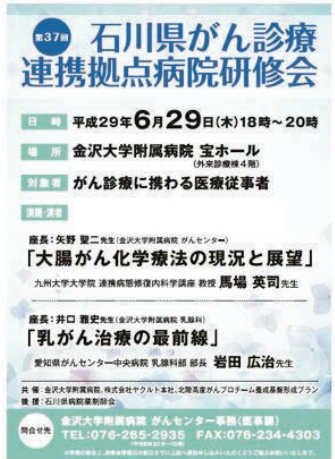
2月6日（火）開催予定でしたが、大雪の為、3月6日（火）へ延期

腫瘍病理セミナー FD講演会

No.	内 容
<p>第26回</p>	<p>日 時：平成29年10月11日（水）18：00～</p> <p>場 所：金沢医科大学（基礎研究棟3階 大学院セミナー室） 各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>テーマ：「ゲノムシーケンスによって 発がん過程を解き明かす」</p> <p>講 師：柴田 龍弘 (東京大学医科学研究所ゲノム医科学分野教授)</p> <p>参加者：48名</p> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>第27回</p>	<p>日 時：平成29年11月21日（火）15：00～</p> <p>場 所：金沢医科大学（基礎研究棟3階 大学院セミナー室） 各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>テーマ：「炎症依存的な胃発がんモデルマウスを用いた研究」</p> <p>講 師：越前 佳奈恵（金沢大学がん進展制御研究所 特任助教）</p> <p>テーマ：「子宮で発症する癌と Pten の関係 - マウスモデルを用いた解析 -」</p> <p>講 師：大黒 多希子 (金沢大学学際科学実験センター 教授)</p> <p>テーマ：「病理組織検体のオミックス解析に基づく がんの個別化医療開発とその実装」</p> <p>講 師：金井 弥栄 (慶應義塾大学医学部病理学教授)</p> <p>参加者：29名</p> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>第28回</p>	<p>日 時：平成29年12月6日（水）18：00～</p> <p>場 所：金沢医科大学（基礎研究棟3階 大学院セミナー室） 各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>テーマ：「Pathology of Paget disease of bone and Paget sarcoma」</p> <p>講 師：Dr. Yong-Koo Park, M. D., Ph. D. (Professor, Department of Pathology, School of Medicine, Kyung Hee University, Seoul, Korea)</p> <p>参加者：14名</p> <div style="text-align: right;">  </div>

No.	内容
第29回	<p>日 時：平成29年12月13日（水）18：00～</p> <p>場 所：金沢医科大学（基礎研究棟3階 大学院セミナー室） 各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>テーマ：「小児脳腫瘍における 分子メカニズム解析」</p> <p>講 師：荒川 芳輝 (京都大学大学院医学系研究科脳神経外科学)</p> <p>参加者：33名</p>
	
第30回	<p>日 時：平成30年1月26日（金）18：00～</p> <p>場 所：金沢医科大学（基礎研究棟3階 大学院セミナー室） 各大学、各施設テレビ会議室</p> <p>テーマ：「がんを理解するための ゲノム科学と人工知能」</p> <p>講 師：石川 俊平 (東京医科歯科大学難治疾患研究所 ゲノム病理学分野)</p> <p>参加者：30名</p>
	

がん拠点病院と連携したFD研修会

No.	内容
第37回	<p>日 時：平成29年6月29日（木）18：00～20：00</p> <p>場 所：金沢大学附属病院 宝ホール</p> <p>テーマ：「大腸がん化学療法の実況と展望」</p> <p>講 師：馬場 英司 (九州大学大学院連携病態修復内科学講座 教授)</p> <p>テーマ：「乳がん治療の最前線」</p> <p>講 師：岩田 広治 (愛知県がんセンター中央病院 乳腺科部 部長)</p> <p>共 催：金沢大学附属病院、株式会社ヤクルト本社、 北信がんプロ</p> <p>後 援：石川県病院薬剤師会</p> <p>参加者：66名</p>
	

No.	内 容
第38回	<p>日 時：平成 29 年 11 月 9 日（木）18：00～20：00 場 所：金沢大学附属病院 宝ホール テーマ：「医療の質保証に向けた効率的・効果的なパスの運用」 講 師：小林 美亜 （千葉大学医学部付属病院 医療の質向上本部 地域医療連携部特命病院 教授） テーマ：「乳がん治療としての乳房再建～広がる選択肢～」 講 師：津川浩一郎 （聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科 教授） 共 催：金沢大学附属病院、アストラゼネカ株式会社、北信がんプロ 後 援：石川県病院薬剤師会 参加者：97 名</p> <p style="text-align: center;">【参加者へのアンケートの結果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>クリニカルパスの講義</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>乳がんの講義</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 45%;">■ 大変興味がある <li style="width: 45%;">■ 大変理解しやすい <li style="width: 45%;">■ 興味がある <li style="width: 45%;">■ 理解しやすい <li style="width: 45%;">■ 普通 <li style="width: 45%;">■ やや理解しにくい <li style="width: 45%;">■ あまり興味がない <li style="width: 45%;">■ 理解しにくい <li style="width: 45%;">■ 興味がない <li style="width: 45%;">■ 無回答 <li style="width: 45%;">■ 無回答
第39回	<p>日 時：平成 30 年 3 月 1 日（木）18：00～20：00 場 所：金沢大学附属病院 宝ホール テーマ：「がん患者の就労について」 講 師：藤井 健人 （石川労働局労働基準部 健康安全課 課長） テーマ：「小線源治療」 講 師：萬 篤憲 （独立行政法人国立病院機構 東京医療センター放射線科 医長） テーマ：「長期生存が可能になった免疫チェックポイント阻害薬による肺癌治療」 講 師：猶木 克彦 （北里大学 呼吸器内科 教授） 共 催：金沢大学附属病院、小野薬品工業株式会社、ブリistolマイヤーズスクイブ株式会社、北信がんプロ 後 援：石川県病院薬剤師会 参加者：87 名</p>



FD・SD研修会／講演会

内 容

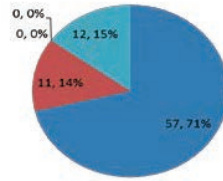
看護セミナー

日 時：平成 29 年 7 月 2 日（日）
 場 所：石川県立看護大学
 テーマ：「グリーフの理解とナースに求められること」
 講 師：下稲葉 かおり（モナシュ大学）
 参加者：89 名

【アンケート】

- ・「自分にも今出来るケアがあることが分かり、気持ちが高くなった。」
- ・「ケアを続けるために、自分たちもケアしケアされなければいけないと感じた。」
- ・「この講演そのものが癒しになった。」

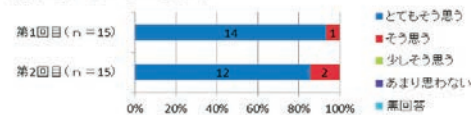
ほとんどの方がこの講演に満足したと回答した。



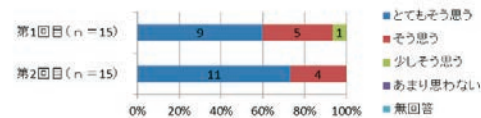
看護セミナー

日 時：①平成 29 年 8 月 12 日（土）15：20～16：30
 ②平成 29 年 10 月 22 日（日）10：30～12：00
 場 所：石川県立看護大学 3 階 会議室
 テーマ：「CNS 関係者によるがん看護事例検討会」
 講 師：①松下 智珠子
 （北里大学病院 がん看護専門看護師）
 ②石垣 靖子（北海道医療大学 名誉教授）
 参加者：18 名

① 事例の内容は今後の CNS としての看護実践に活かされると思いますか

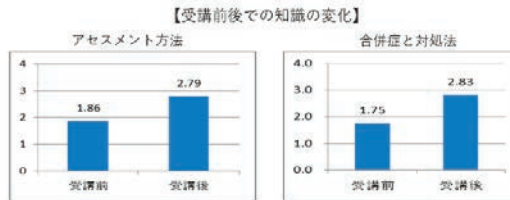


② 意見交換の内容は今後の CNS としての看護実践に活かされると思いますか



看護セミナー

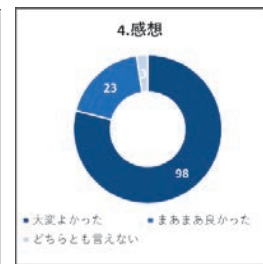
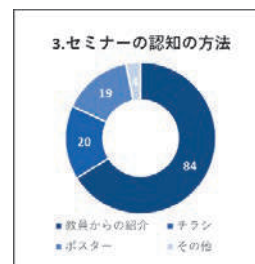
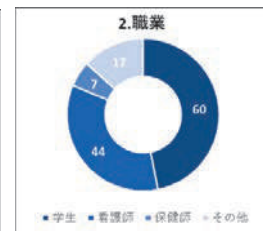
日時：①平成29年9月9日(土) 09:30~16:00
 ②平成30年2月17日(金) 9:30~15:30
 場所：石川県立看護大学 教育研究棟2階
 成人・老年看護学実習室
 テーマ：①「臨床で行うリンパ浮腫のケア 基礎編」
 ②「臨床で行うリンパ浮腫のケア アドバンス編」
 講師：①高地 弥里(石川県共済会金沢病院 がん看護専門看護師)
 ②山岸 愛(石川県済生会金沢病院リンパ浮腫療法士
 日本医療リンパドレーナジ上級セラピスト)
 ②高地 弥里(石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師
 日本医療リンパドレーナジ中級セラピスト)
 ②時山 麻美(富山県立中央病院 がん看護専門看護師
 日本医療リンパドレーナジ中級セラピスト)
 主催：北信がんプロ
 参加者：①64名
 ②13名



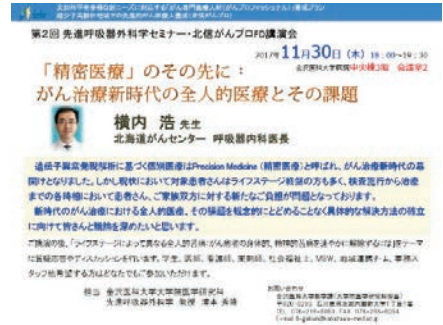
- ・ロールプレイを中心にアドバンス編を初めて実施した。
- ・「明日から本当に使える学びを得た」との感想があった。

看護セミナー

日時：平成29年11月24日(金) 17:30~19:00
 場所：福井大学医学部臨床大講義室
 テーマ：「つながる・ささえる・つくりだす在宅現場の地域包括ケア」
 講師：秋山 正子
 (株式会社ケアーズ代表取締役 / 白十字訪問看護ステーション統括所長 / マギーズ東京センター長)
 主催：北信がんプロ
 共催：福井大学大学院医学系研究科
 後援：福井県看護協会
 参加者：145名



	内 容
第2回先進呼吸器外科学セミナー	<p>日 時：平成 29 年 11 月 30 日（木）18：00～19：30</p> <p>場 所：金沢医科大学病院 病院中央棟 3 階 会議室 2</p> <p>テーマ：『精密医療』のその先に～がん治療新時代の全人的医療とその課題～</p> <p>講 師：横内 浩 （北海道がんセンター呼吸器内科 医長）</p> <p>主 催：金沢医科大学大学院医学研究科 先進呼吸器外科学</p> <p>共 催：北信がんプロ</p> <p>参加者：26 名</p>
事例研究	<p>日 時：平成 30 年 1 月 28 日（日）10：00～16：00</p> <p>場 所：石川県立看護大学 中講義室 3</p> <p>テーマ：「ケアの意味を見つめる事例研究」</p> <p>講 師：山本 則子（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学／ 緩和ケア看護学分野 教授）</p> <p>主 催：北信がんプロ</p> <p>参加者：40 名</p>
S D 講演会	<p>日 時：平成 30 年 2 月 24 日（土）13：00～15：00</p> <p>場 所：ホテル金沢（4 階エメラルド）</p> <p>テーマ：「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」</p> <p>講 師：米澤 美和（石川県立中央病院 教授） 青儀 健二郎（四国がんセンター 乳腺・内分泌外科 臨床研究推進部長） 岸田 恵（四国がんセンター がん化学療法認定看護師）</p> <p>主 催：北信がんプロ</p> <p>共 催：石川県病院薬剤師会</p> <p>後 援：北國新聞社</p> <p>参加者：66 名</p>
F D セミナー	<p>日 時：平成 30 年 2 月 27 日（火）17：30～19：30</p> <p>場 所：各開催施設・テレビ会議室</p> <p>テーマ：「小児血液・がんセミナー in 中部」</p> <p>講 師：森河 万莉（金沢医科大学小児科） 谷澤 昭彦（福井大学医学部がん専門医育成推進講座 小児科） 秋田 直洋（国立病院機構名古屋医療センター小児科） 高橋 義行（名古屋大学大学院医学系研究科小児科学）</p> <p>主 催：一般社団法人日本小児血液・がん学会</p> <p>共 催：北信がんプロ</p> <p>参加者：85 名</p>



多様なライフステージに対応するための研修会(富山)

	内 容	
技術研修会	<p>日 時：平成 29 年 9 月 30 日（土）～10 月 1 日（日）</p> <p>場 所：富山大学附属病院 多目的研修室</p> <p>テーマ：「がん医療に携わる医師に対する コミュニケーション技術研修会」</p> <p>講 師：野崎 善成（富山赤十字病院 医師） 竹川 茂（富山県立中央病院 医師） 村上 望（厚生連高岡病院 医師） 山本 理栄（自治医科大学 臨床心理士）</p> <p>共 催：富山大学附属病院 集学的がん診療センター、 北信がんプロ</p> <p>協 力：一般社団法人日本サイコオンコロジー学会、 特定非営利活動法人日本緩和医療学会</p> <p>参加者：4 名</p>	 
人材育成セミナー	<p>日 時：平成 29 年 10 月 28 日（土）15：00～</p> <p>場 所：かみいち総合病院 2 階大会議室</p> <p>テーマ：平成 29 年度北信がんプロ人材育成セミナー 「聞き書きで変わる私たちの看護」</p> <p>講 師：島山 貴江 （一関市国民健康保険藤沢病院病棟副師長）</p> <p>主 催：北信がんプロ、 富山大学/2017 年度勇美団助成事業</p> <p>参 加 者：80 名</p>	
援助者養成基礎講座	<p>日 時：平成 29 年 12 月 16 日（土）～17 日（日）</p> <p>場 所：富山大学附属病院 多目的研修室</p> <p>テーマ：エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座 in 富山 『看取りへの「苦手意識」から「関わる自信」へ』</p> <p>講 師：小澤 竹俊 （一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会理事、 めぐみ在宅クリニック院長）</p> <p>共 催：富山大学附属病院 集学的がん診療センター、 一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会、 北信がんプロ</p> <p>参加者：100 名</p>	

合同セミナー／国際セミナー・シンポジウム

	内 容
国際セミナー	<p>日 時：平成 29 年 9 月 26 日（火）18：00～19：30 場 所：金沢大学医学部記念館 テーマ：「Beyond Targeting Oncogenes:Emerging Anti-Cancer Strategies」 講 師：Tak W. Mak, Ph. D. (Director, The Campbell Family Institute for Breast Cancer Research, Princess Margaret Cancer Centre, University Health Network, CANADA) 主 催：北信がんプロ、金沢大学がん進展制御研究所（がん研セミナー） 参加者：87 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> 
国際シンポジウム	<p>日 時：平成 29 年 10 月 25 日（水） 場 所：金沢東急ホテル 「金沢大学がん進展制御研究所／50 周年記念国際シンポジウム」 主 催：金沢大学がん進展制御研究所、金沢国際がん生物学研究会 共 催：「がん進展機構の本態解明を目指す研究拠点強化プロジェクト」 超然プロジェクト、 金沢大学新学術創成研究機構、 金沢大学ナノ生命科学研究所、 北信がんプロ 参加者：221 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
合同セミナー	<p>日 時：平成 29 年 10 月 26 日（木）17：00～18：30 場 所：外来診療棟 4 階 金大病院 CPD センター テーマ：「臨床研究事案から学ぶ COI 管理」 講 師：曾根 三郎 (徳島大学名誉教授 / 徳島市病院局 ・ 病院事業管理者) 共 催：北信がんプロ、未来医療研究人材養成拠点形成事業、 金沢大学附属病院先端医療開発センター 参加者：107 名</p> 

がんサロン「ハーモニー」 金沢大学附属病院

No.	内 容
第1回	<p>日 時：平成 29 年 4 月 19 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「金大がんセンターの最新治療」</p> <p>講 師：矢野 聖二（がんセンター医師）</p> <p>参加者：49 名</p>
第2回	<p>日 時：平成 29 年 5 月 17 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「在宅医療 ～家で朗らかに過ごすために～」</p> <p>講 師：大和 太郎（やまと@ホームクリニック医師） 寺田 祐里（緩和ケア認定看護師）</p> <p>参加者：55 名</p>
第3回	<p>日 時：平成 29 年 6 月 21 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「がんの脊椎移転 ～ドクターXにも出た 金沢発の最先端手術はこれだ！～」</p> <p>講 師：村上 英樹（脊椎・脊髄外科医師）</p> <p>参加者：48 名</p>
第4回	<p>日 時：平成 29 年 7 月 19 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「『元ちゃんハウス』ってどんなところ？」</p> <p>講 師：綿谷 修一（がんとむきあう会副理事長）</p> <p>参加者：39 名</p>
第5回	<p>日 時：平成 29 年 9 月 20 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「がんとヨーガ療法」</p> <p>講 師：河崎 幾恵（make merry hair & make）</p> <p>参加者：36 名</p>
第6回	<p>日 時：平成 29 年 10 月 18 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「笑顔になるメイク ～体験して伝えたいこと～」</p> <p>講 師：表 雪江（がんセンター医師）</p> <p>参加者：19 名</p>
第7回	<p>日 時：平成 29 年 11 月 15 日（水） 14：00～15：30</p> <p>テーマ：「緩和ケアセンターについて ～がん哲学外来を含めて～」</p> <p>講 師：山田 圭輔（麻酔科蘇生科/緩和ケアセンター医師）</p> <p>参加者：40 名</p>



No.	内 容
第8回	日 時：平成29年12月20日（水）14：00～15：30 テーマ：「知りたい！検査データの見方」 講 師：大江 宏康（検査部 臨床検査技師） 参加者：31名
第9回	日 時：平成30年1月17日（水）14：00～15：30 テーマ：「あなたの気持ち、ちゃんと伝えてますか？ ～がんと向き合うための アドバイス・ケア・プランニング～」 講 師：山崎 宏人（臨床倫理コンサルティングチーム/医師） 参加者：42名
第10回	日 時：平成30年2月21日（水）14：00～15：30 テーマ：「自分らしい生活を続けよう ～がん治療中の 食事・趣味・ペットとの付き合い方～」 講 師：海野 泰好（外来化学療法室/ がん化学療法看護認定看護師） 参加者：33名
第11回	日 時：平成30年3月20日（水）14：00～15：30 テーマ：「つらい時の心の置き方」 講 師：内藤 暢茂（神経科精神科/医師） 参加者： 名



合同市民公開講座

No.	内 容
第1回 金沢大学	<p>日 時：平成 29 年 10 月 29 日（日）14：00～16：15</p> <p>場 所：金沢大学宝町キャンパス・十全講堂</p> <p>テ ー マ：「がんになって考える？がんになる前に考える？」</p> <p>講 師：元雄 良治（金沢医科大学腫瘍内科学教授） 林 龍二（富山大学附属病院臨床腫瘍部教授） 加藤 駿一（金沢大学医学類 2 年） 田中 大貴（金沢大学医学類 5 年）</p> <p>特別講演：『大切な人の「想い」とともに』～112 日間のママ～</p> <p>講 師：清水 健（元読売テレビキャスター）</p> <p>主 催：北信がんプロ</p> <p>共 催：石川県がん診療連携協議会、金沢大学がん進展制御研究所、 金沢大学附属病院先端医療開発センター、北陸臨床研究推進機構、 北陸認知症プロフェSSIONAL医養成プラン、未来医療研究人材養成拠点形成事業</p> <p>後 援：石川県、金沢市、石川県医師会、金沢市医師会、石川県看護協会、テレビ金沢、 エフエム石川、金沢ケーブルテレビネット、北陸放送</p> <p>参 加 者：157 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div>
	<p>【アンケート結果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>性別</p>  <p>女性 84名 男性 28名</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>年齢</p>  <p>80代以上 2名 70代 13名 60代 26名 50代 42名 40代 33名 30代 4名 20代 3名</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>開催を何で知ったか</p>  <p>新聞 73名 ポスター・チラシ 31名 知人紹介 22名 ホームページ 8名 その他 6名</p> </div> </div>

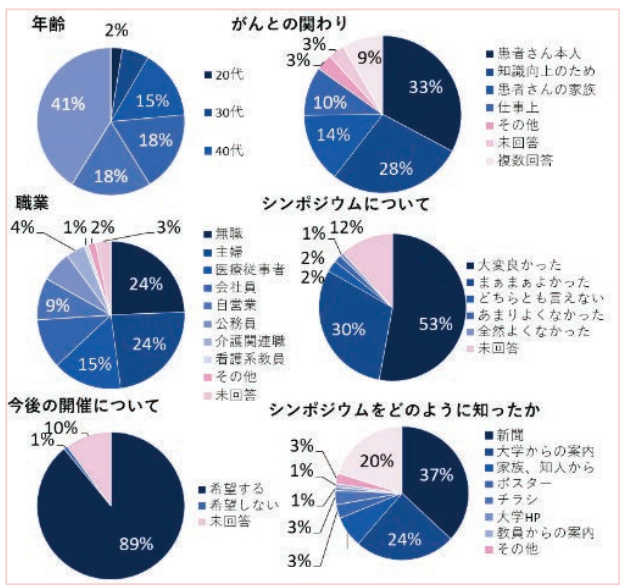
市民公開講座




	内 容	
<p>金沢医科大学</p>	<p>日 時：平成 29 年 10 月 9 日（月）14：00～16：00 場 所：ホテル金沢 4 階エメラルドルーム テーマ：「がんゲノム医療を知ろう ～最適の治療を受けるために～」 講 師：西原 広史 （北海道がんセンターがんゲノム医療センター長／ 慶応義塾大学病院腫瘍センター客員教授） 新井田 要 （金沢医科大学総合医学研究所先端医療研究領域 遺伝子疾患研究分野准教授／ 金沢医科大学病院集学的医療部医療センター長） 主 催：金沢医科大学大学院医学研究科腫瘍内科学 北信がんプロ 共 催：石川県がん診療連携協議会 後 援：石川県医師会、北国新聞、テレビ金沢、エフエム石川 参加者：68 名</p>	
<p>信州大学</p>	<p>日 時：平成 29 年 11 月 12 日（日）13：00～15：00 場 所：信州大学旭総合研究棟 9 階 講義室 A B （信州大学松本キャンパス） テーマ：「がん化学療法（抗がん剤治療） における腫瘍内科医の役割」 講 師：小泉 知展 （信州大学医学部附属病院 信州がんセンター長） 講 師：中村 将人 （相澤病院がん集学治療センター化学療法科統括医長） 講 師：竹内 信道 （伊那中央病院 腫瘍内科 部長） 講 師：上野 真由美 （長野赤十字病院 腫瘍内科部 副部長） 後 援：北信がんプロ 参加者：70 名</p>	
<p>富山大学</p>	<p>日 時：平成 29 年 12 月 16 日（土）13：00～15：55 場 所：富山国際会議場大手町フォーラム テーマ：「大きく変わった消化器がん治療と予防」 講 師：安藤 孝将（富山大学附属病院 第三内科） 北條 荘三（富山大学附属病院 第二外科） 藤井 努（富山大学附属病院 第二外科） 林 龍二（富山大学附属病院 臨床腫瘍部） 杉山 敏郎（富山大学附属病院 第三内科） 参加者：317 名</p>	

内 容	
金沢医科大学	<p>日 時：平成 29 年 12 月 16 日（土）14：00～16：00 場 所：ホテル金沢 4 階エメラルドルーム テーマ：「がん免疫療法を知らう ～自分に最適な治療を求めて～」</p> <p>講 師：下平 滋隆（金沢医科大学再生医療学 教授／ 金沢医科大学病院再生医療センター 副センター長） 中面 哲也（国立研究開発法人国立がん研究センター 先端医療開発センター免疫療法開発分野 分野長） 杉山 治夫（大阪大学名誉教授 大阪大学大学院医学系 研究科癌免疫学共同研究講座 特任教授）</p> <p>主 催：金沢医科大学大学院医学研究科再生医療学、北信がんプロ 共 催：文部科学省 私立大学研究ブランディング事業、金沢医科大学細胞治療プロジェクト、 「北陸における細胞治療イノベーションの戦略的展開」 後 援：石川県医師会、北國新聞社、テレビ金沢、エフエム石川 参加者：96 名</p>



福井大学	<p>日 時：平成 29 年 12 月 17 日（日）13：30～16：30 場 所：福井県県民ホール（アオッサ 8 階） テーマ：「県民公開シンポジウム がん診療最前線 ～納得できる医療を求めて～」</p> <p>講 師：根来 英樹（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 助教） 五井 孝憲（福井大学学術研究院医学系部門医学領域外科学（1） 教授） 上澤 悦子（京都橘大学看護学部 教授） 中川 清和（がん患者会「みのり会」会員） 中川 権人</p> <p>主 催：福井大学、北信がんプロ 共 催：福井新聞社 後 援：福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県看護協会、福井県病院薬剤師会、 福井県がん診療連携協議会 参加者：170 名</p>
------	--



	内 容
<p>信州大学</p>	<p>日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木）18：00～19：00 場 所：信州大学医学部附属病院 外来棟 4 階 大会議室 テーマ：「肺がんの内科治療～個別化治療のために～」 講 師：立石 一成（信州大学医学部 内科学第一教室 呼吸器・感染症・アレルギー内科） 主 催：信州がんセンター 共 催：北信がんプロ 参加者：71 名</p> 
<p>富山大学</p>	<p>日 時：平成 30 年 2 月 18 日（日）13：00～15：30 場 所：富山国際会議場 3 階メインホール テ ー マ：「私が、がんになるなんて!？」 講 師：酒井 裕美（富山県立中央病院 緩和ケアセンターGM ／上席看護師長） 船木 康二郎（富山市民病院 緩和ケア内科部長） 樋口 麻衣子（石川県立看護大学大学院 がん看護専門看護師コース／特任助手） 特別講演：「がんになっても自分らしく生きられる社会へ」 講 師：鈴木 美穂（認定 NPO 法人マギーズ東京共同代表／ 日本テレビ報道局記者（兼）キャスター） 主 催：富山大学附属病院、北信がんプロ 共 催：富山県がん診療連携協議会、富山県立中央病院、 黒部市民病院、富山労災病院、厚生連高岡病院、高岡市民病院、 市立砺波総合病院、富山市民病院、富山赤十字病院 後 援：富山県、富山市、富山県医師会、富山市医師会、富山県薬剤師会、富山市薬剤師会、 北日本新聞社、北日本放送 参 加 者：300 名</p> 
<p>金沢大学</p>	<p>日 時：平成 30 年 3 月 21 日（水）13：00～15：00 場 所：加賀市医療センター KMC ホール テーマ：「最新のがんの診断法や治療法を学ぼう」 講 師：佐藤 礼子（小松市民病院 外科） 石田 哲也（加賀市医療センター副院長） 西 耕一（石川県立中央病院 呼吸器内科長） 渡辺 美智夫（芳珠記念病院 副院長） 主 催：石川県がん診療連携協議会 共 催：石川県・石川県医師会・北国新聞社 参加者：181 名</p> 

海外FD研修会／ワシントンDC

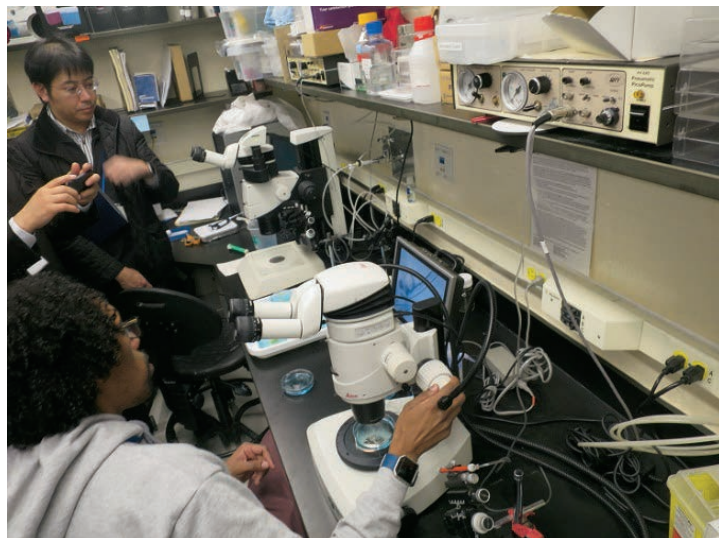
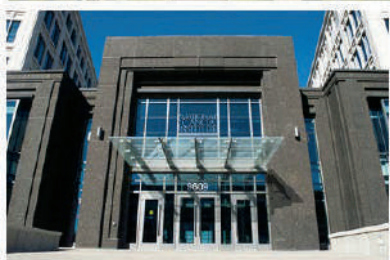
【メインテーマ】がんゲノム医療

【日 程】平成30年2月12日(月)～2月17日(土)

【訪 問 先】国立ヒトゲノム研究所・国立がん研究所

【参 加 者】12名

大学名	所属	役職
金沢大学	脳神経外科	特任助教
金沢大学	薬剤部	主任
金沢大学	薬剤部	薬剤師
金沢大学	腫瘍内科（がん研）	助教
金沢大学	革新ゲノム情報分野（がん研）	准教授
金沢大学	分子細胞病理学	助教
金沢大学	臨床薬物情報学	准教授
信州大学	産科婦人科学	准教授
富山大学	第二外科	講師
福井大学	がん診療推進センター	助教
福井大学	乳腺外科	准教授
金沢医科大学	分子腫瘍学	教授



【ワシントン DC 視察先紹介・概要】

●National Human Genome Research Institute (NHGRI) 国立ヒトゲノム研究所

<https://www.genome.gov/>

国立衛生研究所 (National Institutes of Health:NIH) 傘下の国立ヒトゲノム研究所 (National Human Genome Research Institute : NHGRI) は、遺伝的およびゲノムの研究を行い、遺伝およびゲノムの研究に資金を提供し、その研究を促進して、ヘルスケアにおけるゲノミクスの進歩を導いている。

研究プログラムの部門：

- ①ゲノム科学部門：ゲノムの基礎的研究や技術開発、大規模ゲノム配列決定などの主要な活動を監督。
- ②ゲノム医学部門：ゲノム技術とアプローチを臨床応用とケアに移行するための研究所の取り組みをリードする。
- ③ゲノミクスと社会の部門：ゲノミクス研究に関連する多くの社会問題に関連する研究の拡大プログラムを実施する。研究所の倫理的、法的、社会的含意 (ELSI) プログラムの活動を取り入れ広める。
- ④学外活動部門：助成金申請のレビューや全体的な助成金管理の実施を含む、研究所の助成金ミッションの完全性を確保するために、研究所の外部研究プログラムの無数の運用面を管理する。

★国立研究所概要とゲノム医療に関する包括的な取り組みなど

●National Cancer Institute 国立がん研究所

<https://www.cancer.gov/>

メリーランド州ベセタスに本部を置き、米保健福祉省 (Health and Human Services=HHS) の一部である米国衛生研究所 (National Institute of Health=NIH) は、癌研究のための全国的な連邦機関として、30 の部門、事務所、およびセンターが協力して包括的かつ総合的ながん研究アジェンダを構築、維持、強化している。彼らの仕事は、癌の原因、治療、予防に関する最先端の研究から次世代がん研究者を養成することであり、研究者と癌研究機関の広大なネットワークに資金を提供し、支援すること、加えて米国の国民と世界に癌についての情報提供と教育を行うことである。また、海外からの研修生受け入れや海外への研究助成も積極的に行っている、がん研究の中心組織である。

★NCI の概要、取り組み、NCI と国立ヒトゲノム研究所 (NHGRI) との共同研究である癌ゲノムアトラス (TCGA) と、有効な治療法を生み出すための治療可能な研究 (TARGET) について。

※何千ものゲノムを特徴づけ、正常なサンプルと一致。この多数は、少数の患者の癌の原因となる DNA、RNA およびタンパク質の異常を発見するために重要なものである。

★研究プロジェクトや、米国の対がん戦略である国家がんプログラム (National Cancer Program)、最新の研究や課題などについて話を伺い意見交換を行う。

★希少性がんについての講義

※内分泌腺癌の解析により、新規遺伝子変異が明らかになったケースなどの症例など

<https://www.cancer.gov/news-events/press-releases/2016/TCGA-adrenocortical>

【アンケート結果】

	回答数	備考
【設問 1】 今回の研修はいかがでしたか？		
1. 大変有意義だった	8	
2. 有意義だった	3	
3. もの足りない	0	
【設問 2】 研修の内容を十分に理解できましたか？		
(1) 国立がん研究所		
1. 理解できた	10	※未参加 1名
2. どちらとも言えない	0	
3. あまり理解できなかった	0	
(2) 国立ヒトゲノム研究所		
1. 理解できた	11	
2. どちらとも言えない	0	
3. あまり理解できなかった	0	
【設問 3】 がんゲノム医療について、理解が深まりましたか？		
1. はい	10	
2. どちらとも言えない	1	
3. いいえ	0	
【設問 4】 内容に対して、研修期間は適切でしたか？		
1. 長い	0	
2. 適切	7	
3. 短い	4	
【設問 5】 研修は、今後の研究に役立つものでしたか？		
(1) 国立がん研究所		
1. とても役立つ	5	※未参加 1名
2. 役立つ	5	
3. どちらともいえない	0	
(1. とても役立つ 2. 役立つと回答された方) そう感じた理由は何ですか？		
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカにおけるゲノム医療の進め方が具体的に理解できたから。 ・世界最先端のがん研究が行われている NCI の各部門責任者から生の話を聴くことができた。施設や研究助成の概略的な話が多かったため、どのような研究がどのような手段で行われているかの詳細をもっと聴くことができれば良いと思った。また、NCI 附属の臨床施設の各各職種からの講演があるとよいと思った。 ・現在の、世界におけるがん診療・研究の課題（高齢者の治療、肝臓がんなど）を把握することができた。また、現時点での最新情報を教えて頂いた。また、米国研究者とのパートナーシップによる NIH のグラント獲得も可能であるという情報を頂き、今後の研究活動にも参考になった。 ・世界の最先端では、どのようなことが提案され、さらにそれが実行されようとしているかを知ることができました。 ・ゲノム医療にはあまり触れなかったが、NCI について理解できた。 ・NIH のグラントが世界に向けて開かれていること。また、ゲノム連携拠点病院になっていくに 		

<p>あたり、ゲノム医療、臨床研究をどのようにアメリカではすすめているかを理解できた。</p> <p>・がんゲノム医療 NCI-MPACT、NCI-MATCH を運営されている Takebe 先生からそれらの臨床試験の全般的な組織的活動をご説明いただき役立ちました。米国のがん医療の中心として機能している NIH の組織の素晴らしさを教えていただきました。また、癌化に寄与する遺伝子変異データを集めた TCGAproject の成果を、インターネットのサイト(portal)で閲覧できるようにされており、アノテーションの際にとっても参考になると感じました。金沢大学金子教授らの NIH での肝炎の御研究が高く評価されており、本研修が実現したように感じました。</p> <p>・ NIH の米国、世界で果たす役割に関して直接説明を受け、さらに今後のプロジェクトの概要を示されたことで今後のゲノム医療が向かう先を学べた。</p> <p>・臨床的な問題点や目標点がはっきり示されており、そのための基礎研究や臨床研究が効率よく進められている。精密医療・ゲノム医療を進めるための NCI 主導の臨床試験・治験では、NCI のコーディネーターが行政 (FDA) との交渉や製薬企業参加交渉を進め、大規模に行っていることが印象的であり、日本との違いを感じた。</p> <p>・ガン研究に関わる他分野の研究者のお話を伺うことができた。がん研究に対するモチベーションが上がった。若い研究者を NCI に留学させたいと思った。本学に不足しているシステムについて考えさせられた。</p>		
(2) 国立ヒトゲノム研究所		
1. とても役立つ	7	
2. 役立つ	4	
3. どちらともいえない	0	
(1. とても役立つ 2. 役立つと回答された方) そう感じた理由は何ですか？		
<p>・ゲノム医療の発展に必要なのはテクノロジーだけでなく、患者目線にたって改善していく必要があることを実感できたから。</p> <p>・ワトソン・クリックの時代からこれまでのゲノム研究の流れ・成果を復習できたとともに、現在実施されている研究内容やそれに対する資金援助状況などを理解することができ有意義な研修だった。ゲノム研究所は3日目のみであったが、1日目で NIH についての理解を行い、2日目・3日目はゲノム研究所での研修であれば尚、理解が深まったと思う。</p> <p>・ゲノム医療における課題を知ることができた。ナイーブな問題も抱えており、医療者や一般市民への教育・コミュニケーション、政策方針への働きかけなど参考になる話が多かった。各部門の役割分担、横断的な連携など組織的な活動も参考になった。</p> <p>・米国のゲノム研究の方向性が理解できた。国際的な共同研究を計画することで、研究資金の獲得や最新の知見・技術を共有できる可能性があることを理解できた。NIH では、研究成果を社会や医療制度に還元する仕組みなどが確立されており、研究成果を活用する方法を考える機会となった</p> <p>・ゲノムを用いた医療の拠点として、Broad institute や Washington University など4つの拠点があり、そこでは NIH から資金が提供されているというお話を伺いました。また、臨床情報を包括的に扱うプログラムがあり、その解析が簡単にかつ、短時間で可能になると思われます。</p> <p>・がんだけでなく、ゲノム医療の現状や将来の展望について、概要から具体的な取り組み、NHGRI と拠点組織の状況、ELSI などの課題について広く深く説明があった。</p> <p>・ NIH の研究室でゼブラフィッシュを使った実験がゲノム研究に有用と知ることができた。</p>		

<p>・がんゲノム医療の普及のため、医師または患者への教育を行っておられる先生の講義があり、とても興味深く拝聴しました。がんゲノム医療の有用性、遺伝子変異評価のためのデータベースのサイト、患者へのカウンセリング方法等の動画教育サイトや、有用なガイドラインをご紹介いただきました。質問にも具体的にお答えいただき、今後のがんゲノム医療の推進に大変役立つように感じました。</p>
<p>・NIH の一部の小規模な施設であったが、教育や啓蒙活動を通じて社会へゲノム医療を還元しようとしていた取り組みを知ることができた。</p>
<p>・国立ヒトゲノム研究所 (NHGRI) が中心となって目標点やゴールを定めて、ゲノム研究を進めることで、効率のよく研究成果をあげられていると感じた。見学した研究室自体は日本と変わりはなく、組織作りが日本との違いであろうと感じた。</p>
<p>・ゲノム研究に関わる他分野の研究者のお話を伺うことができた。ゲノム研究に対するモチベーションが上がった。若い研究者を NIH に留学させたいと思った。本学に不足しているシステムについて考えさせられた。</p>
<p>【設問 6】 その他、ご意見があればご記入下さい。(今後の改善点、参加してみたい研修など)</p>
<p>・通訳の重松さんが大変素晴らしい仕事をしてくれたおかげで、内容について正確に理解ができてよかった。また討論もわかりやすく安心でした。</p>
<p>・同行通訳 (重松さん) の正確な通訳のおかげで日本語での講義を聞いているかの如く言語でのストレスは全くなかった。次回海外研修があるならば重松さんの通訳採用を推奨したい。北信各施設からの参加者がいたため、これからゲノム研究に携わる者同士の横の繋がりができた。研修内容に関して、肝炎に関するものが多かった (1/3 から 1/2 位) が、ゲノム医療についてもっと時間を割いていただけると良かったと思われる。非常に有意義な研修であったが、NCI 関連施設の概略についての話は事前資料で配布するなどして短縮し、その分を臨床施設の見学や臨床現場の医師・薬剤師などの医療スタッフの話が直接聞ける時間がもう少しあった方が、より理解が深まると思われる。</p>
<p>・当初の予定にあった病院の見学がなかったのが残念だった。米国で唯一増加傾向にあるがん種の肝臓がんと金沢大学が肝炎・肝がんの領域で WHO コラボレーティングセンターであることに関係したのか肝がんの話題が多かったものの、参加者に肝臓がんに関わっている方がいなかったのは残念に感じた。研修プログラムを組む際、参加者の専門性や希望も考慮して頂けたらなお良かった。</p>
<p>・今回は、総論的な話がほとんどだったため、こちらから見たいものを具体的に提案すると良いかなと思いました (今回、なぜか 1 日かけて肝炎の説明を聞きました)。実際に行っている研究内容を説明していただき、ディスカッションできるような研修に参加してみたいです。</p>
<p>・ゲノムを用いた医療の拠点である、Broad institute や Washington University など 4 つの拠点での具体的な研究および、今回は見学できませんでしたが、NIH 内にあるゲノム解析研究を見学してみたいと思います。</p>
<p>・ゲノム解析機関がどのような設備があり、どのような立場の方がどれくらいの人数で動いているのか、などは今回の研修では知ることができなかった。機会があれば実務部署や拠点施設を見学できると良いと思う。</p>
<p>・金沢大学から来ていると NIH 側は理解していた関係か、金沢大学なら肝炎のことに興味があるに違いないと考えられていたようで、プログラム内容が肝炎を主体に組まれていました。こちらはゲノムを中心に話を聞くつもりでいたので、テーマが一部ずれていたように感じました。プロ</p>

グラム内容のチェックが必要かと思いました。

・事前にかんゲノム医療に関する質問を提出できていたら良かったと感じました。ご講演いただいた先生は大変高名な先生ばかりと思いましたが、その専門性や仕事の詳細な内容まで存じ上げず、的外れな質問をしてしまい、ご解答に困られる場面がありました。ゲノム医療を実践されている病院での研修に参加できればさらに良いと思いました。

・研修の手配業者とメール上で具体的な事前の打ち合わせが望ましかった。座学がメインである中で、何故かウイルス性肝炎の講義が多く偏りがあった。予算内で可能であれば、ゲノム医療を実践している病院内での実臨床の様子（どのように医師が説明しているかなど）などを見学したかった。

・今回、通訳（重松さん）の能力が素晴らしかった。彼女の豊富な医学的知識とわかりやすい通訳のおかげで、セミナーを十分に理解することができた。今後もぜひ続けていただきたい。

海外FD研修会／メルボルン

【メインテーマ】緩和ケア

【日 程】平成30年3月24日(土)～3月30日(金)

【訪 問 先】ビクトリア州保健福祉局

王立メルボルン病院

モナッシュこども病院・こどもガンセンター

バンキシア緩和ケアサービス

【参 加 者】14名

大学名	所 属	役 職
石川県立看護大学	成人看護学	教授
石川県立看護大学	成人看護学	助教
石川県立看護大学	老年看護学	教授
石川県立看護大学	小児看護学	講師
石川県立看護大学	基礎看護学	講師
石川県立看護大学	がんプロ	特任助手
金沢大学	看護部	緩和ケア認定看護師
信州大学	医学部附属病院信州 がんセンター緩和ケア部門	教授
信州大学	医学部附属病院薬剤部	薬剤師
富山大学	看護部	緩和ケア認定看護師
富山大学	附属病院臨床腫瘍部	助教
福井大学	がん診療推進センター	緩和ケア認定看護師
福井大学	がん診療推進センター	副看護師長
金沢医科大学	看護学部	講師



【メルボルン視察先紹介・概要】

●Department of Health & Human Service, State of Government of Victoria

(ビクトリア州保健福祉省)

ビクトリア州政府はビクトリア州に住む全ての人々の為に終末期医療と緩和ケアの改善に取り組んでおり、新しい終末期医療と緩和ケアの枠組みを発表した。人と成果に焦点を当てる。地元の解決策を可能にする。※この枠組みは現在、保健福祉省によってレビューされている。

「Palliative Care Program について」

「緩和ケアは生命を脅かす病気に直面している患者(成人および子供)やその家族の生活の質を改善するアプローチであり、それは身体的、心理社会的または霊的なものであれ、痛みおよび他の問題の早期発見、正確な評価および治療に苦しむことを防止および緩和する。」(世界保健機関より) 専門家による緩和ケアサービスでは、以下を通じ生命を脅かす病気の人々を支援することが出来る。

- ◇ 専門緩和ケア介入を必要とする人々のための直接ケア
- ◇ 他の医療提供者とのケアの共有
- ◇ エンド・オブ・ライフ・ケアを提供する他のサービスとヘルスケア・チームに関する相談とアドバイス、緩和ケアと終末期問題に関する教育と訓練
- ◇ 死に瀕している人やその家族/介護者のケアに関する研究の実施と普及など

●Royal Melbourne Hospital (王立メルボルン病院)

ビクトリア州パークビルにある RMH(ロイヤル・メルボルン病院)はメルボルン郊外にあり、1848年の設立以来、オーストラリアで有力な公立病院の1つ。臨床研究で評判の高い、第三次医療の為の主要な教育機関でもあり、メルボルン大学医学部とも強い連携体制を取っている。病院はロイヤル・メルボルン病院、ノースウェスト透析サービス、ノースウェスタンメンタルヘルスを含むメルボルン

・ヘルスの一環として管理されている。診療部門は産婦人科を除く全ての分野をカバーしている。

●Monash Children's Hospital (モナッシュこども病院、子どもガンセンター)

Monash Children's Hospital は、ビクトリア州最大のヘルスケアサービスである Monash Health の一部門であり、リハビリ、腫瘍学、小児集中治療室、緩和ケアの4つの部門において主要な小児科サービスを提供している。

5つの専用手術室、ベッド総数230に加え、96人の緊急入院患者用のベッド、および州内で最大の新生児集中治療室を備えている。

モナッシュこども病院の継続的な支援は、治療、研究、ケアの最前線にとどまることを確実にしたいと考えている。

またモナッシュこども病院にはがんセンターもあり、小児期および青年期の血液疾患およびがんを治療する為の幅広い専門知識を有し、患者および両親への臨床的、身体的および社会的ニーズを満たす為のサービスを提供している。

モナッシュ CCC は Paediatric Integrated Cancer Service (PICS) 小児統合がんサービスのパートナーであり、治療が終わった後の主要病院と地域センターへの移行と長期フォローアップ・プログラムを容易にする為、PICS 地域社会活動と共有ケアプログラム(ROSCP)が行われている。

●Banksia Palliative Care Service (バンキシア緩和ケアサービス)

メルボルン北東に位置する郊外地域を対象として、緩和ケアを提供する組織である。30余年前、地域サービスの取り組みに熱心な市民により始められた運動が、その後10年余りを経てようやく実現した。ビジョンとして「コミュニティとの連携により、利用しやすい在宅をベースとする緩和ケアの提供と促進」を掲げている。

在宅での緩和医療サービスおよび老人介護施設で不治の疾患と診断された人たちへの緩和ケアを提供する。また患者が医療の他に精神的、社会的な各種支援を得られるように関係機関へと繋ぐコーディネーションを行う。更に患者以外に介護者や家族へのコンサルテーションや支援も行っている。開設当初の1993年には43人の患者であったが、現在は年間およそ500人に利用されている。

受講生の声



谷本 梓 (金沢大学 がん進展制御研究所 腫瘍内科 助教)

腫瘍内科医を目標としていた私は初期臨床研修を修了後、大学院に入学するとともに「がん専門医養成コース」を選択しました。それまでは臨床試験の参加などを通して臨床医としての研鑽を積むことはできましたが、基礎研究の経験がなかった私にとっては大学院生とはいえ再び初期研修が始まったような感覚でありました。幸いなことに、医局の指導医と実験助手の方々の厚いご指導により、予定通りの期間内に原著論文の作成を行うことができました。一方で、本コースの「がんプロキヤンサーボード」で、他科の医師や他職種との症例検討会を数多く経験することで、臨床医としての幅を広げることができました。また、我が国を牽引する研究者を含む多くの講師陣が分子生物学から在宅医療まで各分野を解説した「がんプロ e-learning」の受講は、キヤンサーボードの出席とともに大学院の単位として認められ、学位取得を直接的に後押しする結果となりました。

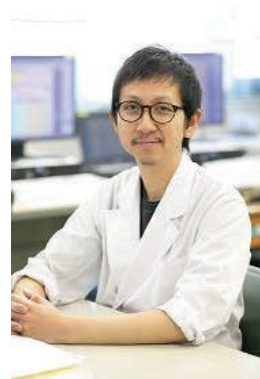
腫瘍内科医を目指す若手医師は、がんプロを修了させることで、「臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医」の受験資格を1年間早めることができます。私はその制度を利用し、卒後7年目で試験に合格することができました。がん薬物療法専門医に合格するために必要な情報量は膨大ですが、実際に基礎研究を行い、がんプロ e-learning で体系的な学習を行ってきたため、基礎と臨床の有機的な繋がりを意識して学ぶことができたのはがんプロ修了直後に受験できたメリットであったと思います。

現在も腫瘍内科医として、病棟、外来、実験室を往復しながらトランスレーショナルリサーチを継続しております。多くの医師が Physician Scientist として臨床と基礎の視野をもつことで難治性の腫瘍に対する新たな治療開発に繋がると信じております。自身もがんプロで養成された医師として社会の期待に応えるべくこれからも精進してまいります。

リサーチマインドを有するがん医療人育成コース

盛田 大介 (信州大学バイオメディカル研究所 助教)

私は信州大学医学部附属病院小児科に所属し、主に白血病やリンパ腫などの小児がん診療に携わってまいりました。2013年4月に信州大学大学院・医学系研究科に進学し、同時にがんプロフェッショナル養成基盤推進プランのリサーチマインドを有するがん医療人育成コースを受講しました。本コースは臨床医としての経験を活かし、トランスレーショナルな研究を推進することを目標としており、まさに私の目指すがん医療人に近づくための良い学びの場であると思います、受講するに至りました。



毎月行われる院内がんボードへの参加は、多岐にわたるがん診療の臨床研鑽として非常に有意義なものであり、そこで得た知識や情報、ネットワークは実際に私のがん診療に大いに反映されました。私はがんプロ2年次に小児がん経験者のための長期フォローアップ外来を当院小児科に設立しましたが、そこでは成人期を迎えた小児がん経験者があらゆる二次がんを発症するという問題に直面しました。日ごろの小児がん診療ではそのような多岐にわたる成人がんの対応は困難でしたが、がんプロ育成コースでの経験により適切な対応を取ることができました。

本コース受講中は中沢洋三教授の指導のもと、がん免疫療法のひとつであるキメラ抗原受容体T細胞の基礎研究に従事しました。キメラ抗原受容体T細胞の培養方法を新たに開発し、遺伝子導入効率を上げることで臨床での実用性を高めることに成功しました。そしてその技術が採用されたキメラ抗原受容体T細胞療法が厚生労働省の認可を受けて、近く臨床試験が行われる予定です。

本コース受講により、幅広い視野をもつがん診療の教育を受け、さらにはトランスレーショナルな研究に従事できたことはこの上ない喜びであり、私を指導して頂いた小泉知展教授、中沢洋三教授を始めとする多くの方々から心から感謝致します。また今後は、本コースで培った知識や経験を後進の教育につなげていきたいと考えています。

がんプロフェッショナル養成コース

葛西 傑 (金沢医科大学医学部腫瘍内科学)



私は金沢医科大学医学部腫瘍内科学に所属し、平成 27 年度より大学院入学、がんプロフェッショナル養成コースを選択しました。

腫瘍内科学は、がん患者を全身的治療によりケアする分野であり、消化器や呼吸器などの臓器を問わず臓器横断的な治療を行います。また腫瘍内科学とは、基礎腫瘍学を臨床に応用する医科学のことであり、腫瘍側因子・がんの生物学的特性、薬物動態などの知識も当然必要となります。さらに腫瘍内科医は、がん性疼痛の緩和・他の診療科や各種サービスとの連携を取り、がんの集学的治療の中心になることが求められます。

本コースの最大の特徴は「e-learning」であり、自分自身の都合に合わせて受講でき、気になる内容に関しては繰り返し視聴可能です。がん治療は全身管理が必要となるため、多岐にわたる領域の知識が要求されます。「e-learning」では、外科治療、内科治療、放射線治療など治療だけではなく、病理組織像などの診断学についても学習することができます。さらに「e-learning」では、診断から治療において臨床腫瘍学の知識を持つ各専門家による授業のみならず、基礎医学、緩和医療、栄養学等、治療を行う上で助けとなる重要な各領域の授業もあります。

また、がんプロフェッショナル養成コース関連の様々な企画があります。ビデオ会議等を用いた多施設による症例検討やがん関連の講演が数多く執り行われ、自施設以外での症例や最新の知見などをリアルタイムで学ぶことも可能となっています。

腫瘍内科医は基礎医学、臨床医学双方の知識を要求されるため、双方を学ぶことができる本コースは今後の実臨床を行う上で非常に有用と考えています。

がん看護専門看護師コース

瀧澤 理穂

(石川県立看護大学大学院博士前期課程 実践看護学領域・成人看護学分野本科生 2年)

2016年の4月、私は本学大学院のがん看護専門看護師コースに進学しました。臨床を経てから改めて学ぶ看護理論や看護研究は非常に奥が深く、患者や医療現場で起こった現象を捉え直す機会となり、刺激的な毎日でした。がん看護専門看護師の臨床実習では、広い視野から多角的な情報を関連させて、時間経過や他者との関係性から患者の全体像を捉え、介入すべき課題を焦点化することの重要性に気付きました。また、自分の看護について、積極的に言語化・可視化していく必要があることを学びました。

チーム医療の必要性が叫ばれて以来、患者と関わる機会が多い看護師は、常に実践や調整という重要な役割を求められています。患者を中心とし、多方面から支えていく医療を提供していくためには、多職種が協働し、専門性とそれぞれの思いを十分に話し合う機会が必要だと考えます。その点においても、超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）のライフステージ事例検討会は、他施設の取り組みや、多職種の様々な価値観や思考に触れ、意見交換が出来る非常に有意義な機会となりました。今後は北信がんプロでの貴重な学びを糧とし、がん看護の向上のために精進していく所存です。

広報活動

◆ホームページ公開

北信がんプロの紹介、患者・一般向け情報、教育コースの受講者募集・受講者向け情報、セミナーや市民公開講座の案内や活動報告を日々更新

URL <http://www.gan-pro.net/>



- ・信州大学 http://www.shinshu-u.ac.jp/good_practice/cancer_gp/
- ・金沢医科大学 <http://www.kanazawa-med.ac.jp/graduate/ganpro/ganpro.html>
- ・石川県立看護大学 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/hokushin/>

◆パンフレット発行

北信がんプロの概要、教育コース（本科コース、インテンシブコース）の案内



◆ニュースレター発行

北信がんプロの取り組みをまとめたニュースレターを年4回発刊し、がん診療連携拠点病院のほか、金沢市内の公民館など広く配布。連携各大学・がん診療連携拠点病院などの活動状況の報告、イベントの告知などを掲載



創刊号（2018年1月発行）

◆新聞掲載記事

平成 29 年 11 月 30 日北國新聞に掲載
『平成 29 年 10 月 29 日
第 1 回北信がんプロ合同市民公開講座』

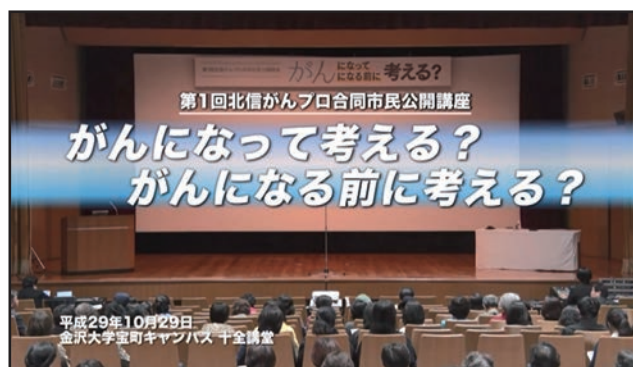


平成 30 年 1 月 28 日福井新聞に掲載
『平成 29 年 12 月 17 日
県民公開シンポジウム』



◆テレビ放送

金沢ケーブルテレビネットにて放送
『がんプロアワー』
毎週日曜日 14 : 00 ~ 15 : 00 : がん診療の最前線の情報やがん診療連携拠点病院の特色、
患者の声などを紹介
: 平成 29 年 10 月 29 日に開催された合同市民公開講座の
ダイジェスト版を平成 30 年 1 月 ~ 3 月まで放送



第Ⅲ部 外部評価

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」

外部評価委員会議事次第

日 時：平成30年3月16日(金曜日) 13時00分～15時30分

場 所：金沢大学医学類B棟1階応接室

(進行) 統括コーディネーター 金沢大学附属病院がんセンター教授 矢野 聖二

I. 開会挨拶

金沢大学基幹教育改革・附属病院担当理事 大竹 茂樹

II. 議 事

1. 配付資料確認

2. 外部評価の手順、確認

3. 活動状況報告（北信がんプロ全体）

(発表30分、質疑応答15分 計45分)

4. 活動状況報告（連携各大学）

(発表5分程度、質疑応答5分 計60分程度)

- | | | |
|---|--------------------|-------|
| ① | 信州大学 包括的がん治療学教授 | 小泉 知展 |
| ② | 富山大学 附属病院臨床腫瘍部教授 | 林 龍二 |
| ③ | 福井大学 がん診療推進センター教授 | 片山 寛次 |
| ④ | 金沢医科大学 再生医療学教授 | 下平 滋隆 |
| ⑤ | 石川県立看護大学 成人看護学領域教授 | 牧野 智子 |
| ⑥ | 金沢大学 附属病院がんセンター教授 | 矢野 聖二 |

5. 評価委員・コーディネーター意見交換

6. 各外部評価委員からの講評

7. 松浦成昭外部評価委員長 講評（総括）

III. 閉会挨拶

金沢大学医薬保健学総合研究科長 堀 修

IV. 閉 会 (15:30 終了予定)

次紙へ

配布資料

- 資料 1 外部評価委員会の手順、確認
- 資料 2 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
活動状況報告資料（北信がんプロ全体 パワーポイント資料）
- 資料 3 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
活動状況報告資料（連携各大学（信州大・富山大・福井大・金沢医科大・石川
看護大・金沢大） パワーポイント資料）
- 資料 4 平成 29 年度 事業報告（2 月末。大学別事業報告）
- 資料 5 平成 29 年度 取組状況・受入状況報告（2 月末。中間・文科省資料）
- 資料 6 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
文部科学省 平成 29 年度多様な新ニーズに対応する「がん専門人材（がんブ
ロフェッショナル）養成プラン」公募申請書
- 資料 7 資料 6「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
採択時の推進委員会からのコメント

外部評価の評価手順（平成30年度）

1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

(1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、中間評価（内部点検）

活動状況と評価、運営協議会によるプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。

(2) 当該評価報告書は、本プログラム担当がんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 3月23日（金）17時まで

2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月30日（金）17時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

北信がんプロ 外部評価委員名簿

- | | | |
|---|--------|---------------------------------|
| 1 | 松浦 成昭 | 大阪国際がんセンター総長（全国がんプロ協議会会長） |
| 2 | 石岡 千加史 | 東北大学腫瘍内科教授（東北次世代がんプロ事業推進責任者） |
| 3 | 眞島 善幸 | 患者会 NPO 法人 パンキャンジャパン理事長 |
| 4 | 澁谷 武志 | 地元産業界 シブヤ EDI 代表取締役（澁谷工業グループ企業） |

開催風景

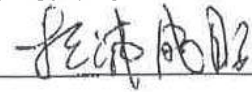


外部評価委員会 出席者名簿

	氏名	所属・職名
1	やの せいじ	金沢大学附属病院がんセンター長
	矢野 聖二	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科教授
2	こいずみ とものぶ	信州大学医学部附属病院がんセンター長
	小泉 知展	信州大学包括的がん治療学教授
3	はやし りゅうじ	富山大学附属病院臨床腫瘍部教授
	林 龍二	
4	かたやま かんじ	福井大学医学部附属病院がん診療推進
	片山 寛次	センター教授
5	しもだいら しげたか	金沢医科大学再生医療学教授
	下平 滋隆	
6	まきの ともえ	石川県立看護大学成人看護学領域教授
	牧野 智恵	
7	おおたけ しげき	金沢大学基幹教育改革・附属病院担当理事
	大竹 茂樹	
8	ほり おさむ	金沢大学医薬保健学総合研究科長
	堀 修	
9	まつした りょう	金沢大学薬学類長
	松下 良	
10	なかひら やすし	金沢大学医薬保健系事務部学生課長
	中平 泰	
11	やすだ じゅんこ	金沢大学医薬保健系事務部学生課副課長
	安田 純子	
12	やすだ きぬえ	金沢大学医薬保健系事務部学生課専門職員
	安田 衣江	
13	いしづか やすし	金沢大学医薬保健系事務部学生課職員
	石塚 靖志	
14	きたい えり	金沢大学医薬保健系事務部学生課職員
	北井 恵理	
15	うちやま めぐみ	金沢大学医薬保健系事務部学生課職員
	内山 恵	

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：



（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
 一部問題や不十分な点がある。
 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

新しいがんプロのスタートを順調に切ったと全体的に評価できる。よく練られた内容と新しい発想の取組みも盛り込まれて、非常に優れた内容と考える。初年度の鴻仰指定は、実施に向けた6大学の連携体制の構築、スタッフ研修、人材交流、市民啓発などは高く評価できる。Eラーニングが教育の中心であり、良い内容のものを多数作成して大変な努力とは思いますが、少し整備が遅れていて不十分な所があるので次年度の教育に間に合うように準備頂きたい。

（優れた点）

超少子高齢化地域としてモデルになる北信地域におけるがん医療人材の養成は今後の地域や国全体のモデルになると考えられ、評価できる。

第3期がんプロのテーマを6大学がそれぞれ分担する形を取っていることも優れた点である。今年度は準備期間で、受入れはインテンシブコースのみであるが、おおむね目標とした受入れ人数を達成している。次年度から本格的な教育が始まるので、多くの受入れ人数を期待したい。

（改善を要する点）

ホームページを一新して内容がわかりやすく、見やすくなった点は良いが、作成中の所がいくつかあり、情報提供の上で遅れているので、改善をお願いしたい。

第2期がんプロの大学院生が在籍しているので、引き続き教育に励んで頂くとともに、第3期がんプロとの関連（別個にやるのか、移行するのか）についても考慮、記載頂きたい。

ゲノム人材養成がにわかには重要課題として浮かび上がってきているが、北信がんプロではゲノム人材のコースが大学院2コース、インテンシブ1コースのみと少ない。ゲノム医療の実現のためにはゲノム医療の専門家だけでなく、関係する幅広い医療スタッフにある程度の知識を普及啓発する活動も必要なので、可能であればインテンシブコースの形で追加することを考慮頂きたい（改善を要するという意味ではないが）。

多くのセミナー、シンポジウムを開催している点を評価するが、これらの開催はがんプロ事業の環であるということ意識して、がんプロの広報にも努めて頂くようお願いしたい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 石岡千加史



（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】	<i>* 事前配布の資料に基づき評価しました。</i>
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。	
<input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。	
<input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。	
[実施状況に関するコメント]	
連携する6大学が、それぞれの特徴を生かし、大学間で相互補完しながら事業を推進する計画である。第3期がんプロのテーマである、がんゲノム医療、小児・AYA世代の癌、希少癌・難治癌や患者のライフステージに対応するがん医療に対応する医療従事者を養成する取り組みが種々計画されており、計画どおりに進捗すれば、北信越地域のがん医療水準の向上に大いに貢献するであろうと期待できる事業内容である。	
(優れた点)	
平成29年度（今年度）は事業が6月からのスタートであり、実施期間が短かったが、種々の講義コースを開講したほか、多くのセミナーや研修会を実施するなど、初年度の取り組みとしては次年度以降の事業推進のための準備が良く行われた。今年度に海外研修が複数実施または計画されており、この点も評価できる。	
(改善を要する点)	
1. 配付資料か e-learning の収録がやや遅れていると判断した。6大学の地理的状況（相互に遠隔地）や第3期がんプロは第2期までにない新しいテーマが盛り込まれていることを考慮して、次年度上4半期にはほぼ収録を完了させてほしい。	
2. がんゲノム医療に従事する人材をどのように養成するか、平成29年度の取り組みとして具体性にやや欠ける点が見られた。厚生労働省のがんゲノム医療中核拠点病院が平成30年2月全国に11病院指定され、全国にがんゲノム医療連携病院が平成30年3月に指定される状況にあり、本プランの連携6大学の複数がこのがんゲノム医療連携病院に申請していると考えられる。がんゲノム医療連携病院では、ゲノム診断のエキスパートパネル、遺伝子診療部、包括的同意によるバイオバンクの実施体制、診療情報部、検査部や病理部との連携体制など院内	

整備が求められおり、本プランにおけるがんゲノム医療に関連する取り組みが、大学病院のがんゲノム医療連携病院の取り組みとどのように関連するのか、同時進行で on-job training 等で人材養成を進める必要があると考えられるので、次年度はこの点をもう少し明確にするのが望ましいと考える。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 真島喜幸
(自筆にてサインをお願いします)

【評価結果】
<input type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] 本科コースへの受入者数で若干懸念されるところもあるが、全体的には特に大きな問題もなく、計画通りに進んでいる。
(優れた点) 北信がんプロは6大学の強みを生かし、第3期がん対策推進基本計画の重点項目（ライフステージにマッチした全人的なケア、希少がん、AYA/高齢者医療、ゲノム医療と遺伝カウンセリング、希少がん病理診断、在宅緩和ケア、グリーンケアなど）の教育プログラムを新設している点は評価に値する。また、28のがん診療連携拠点病院が参加する形で構築されているがん登録データを活用しがん対策に活用するプランもよい。世界の医療は今ものすごい勢いで進展していることから、国際シンポジウムを通して、優れた人材を招聘する、また海外FD研修会を通して国際交流を深めている点は評価できる。
(改善を要する点) ◎海外FD研修会の成果として、得られた知識をベースとして新しいe-Learning講座が開設される、あるいは新しい人脈が継承されるように例えばフェローシップを設けて、人材交流を継続するなどの工夫があるといい。 ◎全国と比較して15年以上進んだ『少子高齢化社会』のニーズは他の地域と比較してどのように異なるのかが明示されるといい。社会のニーズを15年以上先取りした地域のがんプロ養成講座とはどうあるべきか。患者・家族・医療関係者ならびに地域の病診連携もふくめ、そのような観点からこの地域のがん診療体制全体の現状と課題を説明し、その解決策となるように、がんプロ育成プログラムに育て上げ、全国の「モデル」になっていただきたい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：  

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

- ・北陸がんプロの5大学に加え、先端的ゲノム治療を実施し、遺伝子診療部を設立した信州大学が加わったことにより、北信がんプロの取り組む教育内容や活動が、より充実したものとなった。
- ・北信がんプロ6大学、国立がんセンター、各県のがん診療連携拠点病院や協力病院などが協力・連携し、がんのデータベースを共有化したり、北信地域の高度がん診療プロフェッショナルを多職種にわたり育成していることは、素晴らしいことだと思います。

（優れた点）

- ・旧北陸がんプロコンテンツを全国e-クラフトシステムに登録したり、加盟6大学がそれぞれ特色を生かしたe-ラーニングの教材を作ったり、テレビ会議システムを利用して、大学、地域拠点病院、協力病院などが参加する症例検討会を開催するなど、北信地域のがん医療のレベルアップと均等化に多大に貢献しています。

（改善を要する点）

- ・がんプロ事業の一つとして、市民公開講座やシンポジウム等を既に開催いただいておりますが、今後さらにながの定期検診などの予防、早期発見、早期治療の重要性を説き、最新のがん診断や治療の情報を一般市民に提供したり、がん患者の社会復帰を支援するなどのがん教育をするなどの啓蒙活動を積極的に行っていただきたいと思ひます。



北信がんプロ

金沢大学 医薬保健系事務部 学生課大学院係
北信がんプロ事務局

〒920-8640 石川県金沢市宝町13番1号
TEL: 076-234-4205 FAX: 076-265-2855
URL: <http://www.gan-pro.net/>
E-mail: gpro@med.kanazawa-u.ac.jp